

平成19年度事業報告

(財)日本バスケットボール協会
平成20年9月13日

事業報告

1. 技術の調査研究	
(1) エンデバー（一貫指導部）	P. 1～3
(2) 選手強化	
①男子強化	P. 3～7
②女子強化	P. 7～11
(3) 医科学研究	P. 12～13
(4) コーチコミッティー	P. 13
2. 競技会の開催	
(1) 国内競技会	P. 14～22
(2) 国体部	P. 22～23
(3) 日本スポーツマスターズ大会	P. 23～25
3. 国際競技会の開催及び代表チームの派遣	
(1) 国際（国内開催）	P. 25～26
(2) 国際（国外開催）	P. 26～29
4. 国際関係	P. 30
5. 講習会及び指導者養成	
(1) 公認スポーツ指導者養成	P. 31
(2) 規則・審判事業	P. 31～35
(3) 公認審判審査	P. 35
6. 施設、用具の認定	P. 36
7. 総務	P. 36
8. 広報	P. 37～38
9. 普及	P. 38～45
10. 企画	P. 46
11. 事業	P. 46～48
12. 2007年FIBAアジア選手権組織委員会	P. 48～50
13. 日本バスケットボールリーグ設立委員会	P. 50～51
14. ナショナルトレーニングセンター（NTC）	P. 51～52

1. 技術の調査研究

(1) エンデバー (一貫指導部)

● 運営について

平成 17・18 年度同様の組織体制にて運営を行った。現在のところ、エンデバー活動の中心は、U-15・18 ブロックエンデバーとトップエンデバーとなっているが、U-12(ミニ)の活動についても、協賛企業のサポートを得て、前年同様の活動を行うことができた。また、今年度新たに日本協会公式サイト内に「エンデバー特設サイト」を開設し、エンデバー活動の一層の普及、参加者のモチベーションアップを図った。

平成 14 年度より活動を開始した「エンデバー制度」は、エンデバー活動実施の定着は出来たが、今後は更なる「発掘育成制度の活動」(計画的な選手の育成)や「運営力の向上」(組織間の連携体制や運営人材と指導者の確保)と「カリキュラムの充実と策定」がさらに必要である。また、平成 20 年 1 月にはナショナルトレーニングセンターが完成し、関係各部との連携をとりながら有効活用していくことが望まれる。

● 会議開催

- 2007 年 9 月 29 日 ブロックエンデバーミーティング@能代キャッスルホテル
- 2007 年 10 月 5 日 U-15 トップエンデバーミーティング@東興ホテル
- 2007 年 10 月 6 日 男女別年代間合同ミーティング@トヨタ府中スポーツセンター(男子)、柏第一ホテル(女子)
- 2008 年 2 月 26 日 U-18 トップエンデバー選考会議@渋谷区勤労福祉会館

● ブロックエンデバー

<U-15 ブロックエンデバー>

ブロック	性別	日程	開催地	会場	参加人数	
					スタッフ	選手
北海道	男	2007/11/23~11/24	北海道夕張郡	長沼町立中央長沼中学校体育館	10	21
北海道	女	2007/11/23~11/24	北海道夕張郡	長沼町スポーツセンター	10	18
東北	男	2008/2/2~2/3	岩手県一関市	一関市立一関中学校	7	30
東北	女	2008/2/2~2/3	岩手県一関市	一関市立桜町中学校	7	31
関東	男	2008/2/16~2/17	神奈川県川崎市	川崎市立今井中学校・法政大学第二高校	13	23
関東	女	2008/2/16~2/17	神奈川県川崎市	川崎市立川崎高校	11	25
北信越	男	2008/2/2~2/3	富山県富山市	富山県 2000 年体育館・奥田中学校	7	24
北信越	女	2008/2/2~2/3	富山県富山市	富山市総合体育館サブアリーナ・富山商業高校	7	21
東海	男	2008/2/16~2/17	愛知県名古屋市	稲永スポーツセンター	12	20
東海	女	2008/2/16~2/17	愛知県名古屋市	稲永スポーツセンター	13	20
近畿	男	2008/2/23~2/24	滋賀県草津市	立命館大学びわこ草津キャンパス	18	30
近畿	女	2008/2/23~2/24	滋賀県草津市	立命館大学びわこ草津キャンパス	18	30
中国	男	2008/1/26~1/27	広島県広島市	広島県立総合体育館	13	25
中国	女	2008/1/26~1/27	広島県広島市	広島県立総合体育館	11	25
四国	男	2008/1/26~1/27	香川県三豊市	高瀬町総合体育館・三豊市豊中町体育館	7	20
四国	女	2008/1/26~1/27	香川県三豊市	高瀬町総合体育館・三豊市豊中町体育館	7	20
九州	男	2008/2/16~2/17	熊本県熊本市	東海大学付属第二高校	11	24
九州	女	2008/2/16~2/17	熊本県熊本市	東海大学付属第二高校	11	24

<U-18 ブロックエンデバー>

ブロック	性別	日程	開催地	会場	参加人数	
					スタッフ	選手
北海道	男	2008/2/16～2/17	北海道札幌市	札幌北斗高校	5	20
北海道	女	2008/2/16～2/17	北海道札幌市	札幌北斗高校	5	20
東北	男	2008/2/3～2/5	青森県青森市	青い森アリーナ	9	21
東北	女	2008/2/3～2/5	青森県青森市	青い森アリーナ	9	19
関東	男	2008/2/16～2/17	茨城県つくば市	つくば秀英高校体育館	9	38
関東	女	2008/2/16～2/17	茨城県つくば市	つくば秀英高校体育館	9	40
北信越	男	2008/2/2～2/3	富山県富山市	富山県 2000 年体育館・奥田中学校	8	14
北信越	女	2008/2/2～2/3	富山県富山市	富山市総合体育館サブアリーナ・富山商業高校	7	14
東海	男	2008/2/23～2/24	愛知県豊田市	愛知学泉大学豊田校舎	8	25
東海	女	2008/2/23～2/24	愛知県岡崎市	愛知学泉大学岡崎校舎	7	24
近畿	男	2008/2/23～2/24	大阪府豊中市	大阪市立桜宮高校・大商学園高校	12	24
近畿	女	2008/2/23～2/24	大阪府豊中市	大阪市立桜宮高校・大商学園高校	12	22
中国	男	2008/2/16～2/17	広島県広島市	広島修道大学	10	16
中国	女	2008/2/16～2/17	広島県広島市	広島修道大学	10	15
四国	男	2008/2/16～2/17	香川県高松市	英明高校	8	20
四国	女	2008/2/16～2/17	香川県高松市	英明高校	8	20
九州	男	2008/2/16～2/17	熊本県熊本市	東海大学付属第二高校	13	31
九州	女	2008/2/16～2/17	熊本県熊本市	東海大学付属第二高校	12	28

平成 17 年度に作成をしたエンデバーカリキュラム DVD の指導内容をもとに、各ブロックエンデバーチーフコーチを中心に実施した。今後 U-16 カテゴリーなどの国際大会が新設されることや活動が定着してきたことから、早い段階で将来有望な選手や体格的に恵まれた選手が上のカテゴリーへの参加を行うなど、各ブロックでの積極的な取り組みや、中学(U-15)・高校(U-18)間での連携も徐々に行われるようになった。しかし、技術の浸透に必要な指導要領の策定や指導者の育成、また選手の発掘・育成に必要な実施期間や評価制度など、まだまだ準備をしなければならなく、運営体制のさらなる向上や協力が必要である。

● トップエンデバー

<U-15 トップエンデバー>

回数	性別	日程	開催地	会場	参加人数	
					スタッフ	選手
第 1 回	男	2007/10/6～10/8	東京都府中市	府中市立府中第七中学校・トヨタ府中スポーツセンター	14	30
第 1 回	女	2007/10/6～10/8	千葉県柏市	ジャパンエナジー体育館	14	29
第 2 回	男	2007/12/25～12/28	東京都北区	国立スポーツ科学センター(JISS)	5	15
第 2 回	女	2008/1/3～1/6	東京都北区	国立スポーツ科学センター(JISS)	5	15

<U-18 トップエンデバー>

回数	性別	日程	開催地	会場	参加人数	
					スタッフ	選手
第 1 回	男	2008/3/14～3/16	東京都北区	ナショナルトレーニングセンター	14	30
第 1 回	女	2008/3/14～3/16	東京都大田区	日本航空機装ビル 健保体育館	17	30

数年前に比較し、全体的に長身選手や運動能力の高い選手が多く見られた。また、それぞれの技術レベルも高く、数年間のエンデバーの定着による成果の表れだと推察できる。また、トップエンデバーは強化(日本代表)と直結する部分であるが、エンデバーとしてのあり方を今一度整理、確認し、より有益な事業とすべきである。

●U-12 エンデバー活動

平成 18 年度よりこれまでの「アシックスミニバスケットボール教室」とタイアップし、その中で U-12 エンデバーカリキュラムを実施してきた。エンデバー活動が普及してきた中で、今後はより低年齢層におけるエンデバー活動に主眼をおき、活動していかなければならない。ミニ連盟との連携、協力を図り、より充実した活動へと発展させていきたい。

● 総括

平成 14 年度に「JABBA 変革 21」を策定し、「エンデバー制度」を導入してから 6 年が経過し、U-15、U-18 ブロックエンデバー、トップエンデバーは普及、定着し、随所でその成果も確実に表れてきている。但し、現状のシステムがベストではなく、時代の流れ、世界の動き、社会情勢等の変化の中で、見直し、改善が不可欠である。そのためにも今後は長期的な視野の中で中期的に見直しを図り、事業を“継続”していくことが重要である。エンデバー活動は一朝一夕に成就するものではなく、“継続性”が何より大切であるので、それが出来る体制の構築を考え、整えるべきである。

(2)選手強化

①男子強化

1. ナショナルチーム

<FIBAアジア選手権>

今年度の男子日本代表の活動としては、「FIBAアジア男子バスケットボール選手権」に向けての強化として最重点で行なってきた。アジア選手権での結果は「8位」という大変残念な結果に終わってしまった。日本徳島での開催やバスケットボール関係者の悲願である、オリンピック出場ができなかったことについて、皆様方の期待に応えられず、大変申し訳ない。

大会では、8位と言う結果ではあったものの、優勝したイランや2位のレバノン以下8位までは、どのチームが優勝をしてもおかしくなく、アジア全体のレベルは拮抗している。

日本チームも予選ラウンドではレバノンに勝ち、幸先良いスタートを切ったが、カザフスタン戦での敗戦が悔やまれる。2次予選ではオリンピック出場の獲得を失っても、こちらも優勝候補であったヨルダンに勝利するなど、チーム力としては、日本も優勝をしておかしくはなかったが、いずれにしても結果を受け止め反省し、今後の強化活動に向けて行きたい。

昨年度、アジア競技大会から含め、約 2 年間の強化を計画的に行い、世界での戦いとまたアジアでの戦いとチーム作りにも違ってくる上で、アジア競技大会の実績を反映して、今年度迎えベテランから若手、またJBLなどのシーズンを通して選手を見極め強化委員会にて候補選手を選出し、強化合宿でも 5 月中旬には 12 名に絞り込んでチームとしての強化を行った。いずれにしても、結果が全てであるので、今後のナショナルチーム強化に反省点や課題など引継ぎをしてゆく。アジアで勝ち抜くには、①東アジア(中国・韓国・チャニーズタイペイ)、②中近東・湾岸(イラン・レバノン・ヨルダン・カタールなど)、③中央アジア(カザフスタンなど)とそれぞれ全く違ったスタイルで戦わなければならず、チーム編成においても 1 チームで2~3チーム対応できるチーム構成やチーム強化・戦術が必要になってきている。

2. U-24

<ユニバーシアード競技大会>

結果としては、惜しくもメダルには届かなかったものの、福岡ユニバ以来の入賞「4位」という好成績を残す事ができた。ここ数年、ユニバーシアード代表チームの強化に向けて、2カ年計画(前年からの強化)を行ってきた強化計画が実を結んだと考える。

アジア選手権にも参加をしていた、竹内兄弟をアジア選手権最終試合後、そのままユニバ本大会(タイ)へ移動し、実質にチームへ合流したのは、大会前日深夜というハードスケジュールやチーム状況ではあったが、選手やチームスタッフの頑張りによって、好成績を残す事ができた。

これまでの強化の継続や日本代表との合同練習などを行い、ユニバ代表で若手の選手も大きく成長をし、今後の日本代表選手としても活躍が期待できる。

<ジョーンズカップ>

成績としては、10チーム10位という結果に終わった。本来は日本代表チームが参加をする予定であったがアジア選手権直前の為、ユニバ代表を中心としたチーム編成で大会へ参加し、若手の強化として大会に臨んだ。

他の参加チームはナショナルチームで参加をしており、チームの経験として、最終戦のジョーンズカップ優勝のヨルダンに逆転勝利をするなど、チーム強化や若手選手に大きな経験となり、ユニバ本大会への好成績にもつながった。

3. U-18

来年度のアジアジュニア選手権を睨んで、主に1・2年生を中心にチーム編成をし、日中韓までは数名3年生を入れ高体連と連携を組んで、大会参加及びチーム強化を図った。対戦成績は1勝2敗ではあったが、アジア選手権でも対戦されるであろう、中韓のチームと下級生を中心に行なう事ができ来年度に向けて強化活動を行なう事ができた。

3月末から4月にかけて、3年生を除いた1・2年生にて強化合宿およびチャイニーズタイペイへ遠征し強化活動を行ない、アジアジュニア選手権へ望んで強化を図った。

<ナショナルチーム>

(強化日程)

◎ 1次合宿

期 日 平成19年4月19日～4月22日(3泊4日)

場 所 国立スポーツ科学センター

人 数 スタッフ7名、選手17名

◎ 2次合宿

期 日 平成19年4月26日～4月29日(3泊4日)

場 所 アイシン精機体育館

人 数 スタッフ6名、選手17名

◎ 3次合宿

期 日 平成19年5月3日～5月6日(3泊4日)

場 所 アイシン精機体育館

人 数 スタッフ6名、選手16名

- ◎ 4次合宿
 - 期 日 平成19年5月10日～5月13日(3泊4日)
 - 場 所 東芝小向工場体育館
 - 人 数 スタッフ7名、選手16名
- ◎ 5次合宿
 - 期 日 平成19年5月17日～5月20日(3泊4日)
 - 場 所 国立スポーツ科学センター
 - 人 数 スタッフ8名、選手16名
- ◎ 6次合宿
 - 期 日 平成19年5月24日～5月27日(3泊4日)
 - 場 所 広島市湯来町総合体育館
 - 人 数 スタッフ7名、選手16名
- ◎ 7次合宿
 - 期 日 平成19年5月31日～6月3日(3泊4日)
 - 場 所 アイシン精機体育館
 - 人 数 スタッフ7名、選手16名
- ◎ 8次合宿
 - 期 日 平成19年6月5日～6月10日(5泊6日)
 - 場 所 国立スポーツ科学センター
 - 人 数 スタッフ7名、選手12名
- ◎ 9次合宿
 - 期 日 平成19年6月14日～6月17日(3泊4日)
 - 場 所 アスティ徳島
 - 人 数 スタッフ7名、選手12名
- ◎ 10次合宿
 - 期 日 平成19年6月21日～6月24日(3泊4日)
 - 場 所 アイシン精機体育館
 - 人 数 スタッフ7名、選手12名
- ◎ 11次合宿(海外遠征)
 - 期 日 平成19年6月27日～7月10日(13泊14日)
 - 場 所 リトアニア・ドイツ
 - 人 数 スタッフ9名、選手12名
- ◎ 12次合宿
 - 期 日 平成19年7月13日～7月16日(3泊4日)
 - 場 所 代々木第二体育館
 - 人 数 スタッフ7名、選手12名
- ◎ 13次合宿
 - 期 日 平成19年7月19日～7月25日(6泊7日)
 - 場 所 アイシン精機体育館
 - 人 数 スタッフ7名、選手12名
- ◎ FIBA アジアバスケットボール選手権大会
 - 期 日 平成19年7月26日～8月6日(11泊12日)

場 所 アステイ徳島
人 数 スタッフ9名、選手12名

<U-24>

(強化日程)

- ◎ 1次合宿
期 日 平成19年6月22日～6月24日(2泊3日)
場 所 青山学院大相模原キャンパス体育館
人 数 スタッフ6名、選手11名
- ◎ 2次合宿
期 日 平成19年6月30日～7月1日(3泊4日)
場 所 青山学院大学相模原キャンパス体育館
人 数 スタッフ6名、選手11名
- ◎ ジョーンズカップ
期 日 平成19年7月2日～7月11日(9泊10日)
場 所 チャイニーズ・タイペイ
人 数 スタッフ8名、選手11名
- ◎ 3次合宿
期 日 平成19年7月21日～7月24日(2泊4日)
場 所 青山学院大学相模原キャンパス体育館
人 数 スタッフ6名、選手10名
- ◎ 4次合宿
期 日 平成19年7月31日～8月2日(2泊3日)
場 所 東芝小向工場体育館
人 数 スタッフ6名、選手10名
- ◎ ユニバーシアード競技大会
期 日 平成19年8月3日～8月20日(16泊18日)
場 所 タイ
人 数 スタッフ7名、選手12名

<U-18>

(強化日程)

- ◎ 1次合宿
期 日 平成19年4月20日～4月22日(2泊3日)
場 所 アイシン精機体育館
人 数 スタッフ5名、選手19名
- ◎ 2次合宿
期 日 平成19年8月20日～8月22日(2泊3日)
場 所 大阪府大阪市
人 数 スタッフ5名、選手14名
- ◎ 3次合宿

期 日 平成19年11月23日～11月25日(2泊3日)

場 所 国立スポーツ科学センター

人 数 スタッフ5名、選手20名

◎ 4次合宿

期 日 平成20年3月26日～3月28日(3泊4日)

場 所 ナショナルトレーニングセンター

人 数 スタッフ6名、選手12名

◎ 5次合宿(海外遠征)

期 日 平成20年3月29日～4月3日(5泊6日)

場 所 チャイニーズ・タイペイ

人 数 スタッフ6名、選手12名

<強化委員会の開催>

◎ ナショナル委員会5回

◎ U-24委員会2回

U-18委員会3回

FIBAアジア選手権にて目標であったオリンピック出場を果たすことが出来なかった事について、関係各位のご期待に答えることが出来ず申し訳ない。しかしながら、ユニバーシアード競技大会では、4位という好成績を残し、世界基準レベルの若手の台頭があった事は、今後の財産としてかけがいのないものを残す事も出来たと考える。これらも継続して引継ぎより強い日本のナショナルチームを作るべく強化活動を行ってゆかなければならないと考える。

また、今年度1月より「ナショナルトレーニングセンター」が完成し、バスケットボールの強化拠点とし、国際大会の年齢カテゴリーの変更に伴った対応や育成強化なども視野に入れて強化活動をより積極的な活動をしてゆかなければ、世界はおろかアジアでも勝つべくも難しくなっているのも現状であり、強化の視点も国内のみではなくアジア・世界へと向けてゆかなければならない。

最後に、男子強化活動に対し、ご理解ご協力いただいたバスケットボール関係者に方々に深く感謝申し上げます。

②女子強化

《初めに》

代表チームは内海体制に戻って、6月のFIBA-ASIA選手権大会(北京オリンピックアジア予選)に集中した強化を行った。結果は北京オリンピックの切符を獲得することができなかったが、北京オリンピック世界予選への出場権は獲得し、オリンピックへの道は残された。

U-22中の学生中心メンバーはユニバーシアードとジョーンズカップ、またU-21としてヤングウーマン世界選手権大会(この大会でこのカテゴリーの大会は廃止される。)に参加した。U-19についても世界選手権大会に参加した。

本年度はオリンピック予選とともに、各カテゴリーともアジア予選を勝ち進んでの世界大会出場であった。若年層のカテゴリーの強化が充実してきており、代表に継続したものとなりつつある。

《ナショナル・代表》

6月のFIBA-ASIA選手権大会(北京オリンピックアジア予選)に集中した強化を行った。大会はホスト国の中国以外に代表枠は1枠という厳しいものであった。

予選では中国、台北に勝利したものの韓国に惜敗し、準決勝は中国と対戦することになった。対中国戦では前半に離された点差を追い上げるも最後まで届かず惜敗し、この大会でのオリンピック出場は無くなった。

続いて世界予選に向けた3位決定戦では台北の追い上げを振り切り、3点差の勝利で銅メダルを獲得し、世界予選アジア地区1位の出場権を獲得した。

◎ 第1次強化合宿

期日:平成19年4月5日～4月12日

場所:ジャパンエナジー体育館

人員:スタッフ9名 選手12名

◎ 第2次強化合宿

期日:平成19年4月16日～4月23日

場所:ジャパンエナジー体育館

人員:スタッフ9名 選手12名

◎ 第3次強化合宿

期日:平成19年4月26日～4月30日

場所:ジャパンエナジー体育館

人員:スタッフ9名 選手12名

◎ 第4次強化合宿(オセアニア遠征)

期日:平成19年4月30日～5月14日

場所:ニュージーランド・オーストラリア

人員:スタッフ9名 選手12名

◎ 第5次強化合宿

期日:平成19年5月18日～5月20日

場所:ジャパンエナジー体育館

人員:スタッフ9名 選手12名

◎ 国内招待(社行試合)

期日:平成19年5月20日～5月24日

場所:ジャパンエナジー体育館(代々木第2体育館)

人員:スタッフ9名 選手12名

成績:日本68-52ニュージーランド

◎ 第6次強化合宿

期日:平成19年5月27日～5月31日

場所:ジャパンエナジー体育館
人員:スタッフ9名 選手12名

◎ FIBA-ASIA選手権大会

期日:平成19年6月1日～6月11日

場所:韓国 仁川市

人員:スタッフ9名 選手12名

成績:1位韓国、2位中国、3位日本、4位台北

オリンピック出場権獲得は韓国とホスト国枠で中国。平成20年世界予選へは日本と台北が出場する。

《U-22》

U-22部門では、ユニバーシアードとU-21世界選手権大会が行われた。特にU-21世界選手権大会(ヤングウーマン)は、この大会を持って終了するものであった。

このカテゴリーはナショナル予備軍として、大学を中心としたユニバーシアード、実業団を中心としたヤングウーマンと共に貴重な国際経験を体験することができた。

結果はアジアと異なる世界レベルの高さを知らされることになったが、非常によい経験を積むことができた。

(ユニバーシアード)

◎ 第1次強化合宿

期日:平成19年7月4日～7月10日

場所:アイシンAW・トヨタ体育館

人員:スタッフ5名 選手12名

◎ 第29回ウイリアム・ジョーンズカップ

期日:平成19年7月10日～7月18日

場所:台北

人員:スタッフ5名 選手12名

成績:0勝6敗 (参加7チーム中7位)

◎ 第2次強化合宿

期日:平成19年7月30日～8月2日

場所:JAL体育館

人員:スタッフ5名 選手12名

◎ 第24回ユニバーシアード競技大会

期日:平成19年8月3日～8月20日

場所:タイ・バンコク

人員:スタッフ5名 選手12名

成績:参加16チーム中10位

◎ 第3次強化合宿(第25回ユニバーシアード第1次候補)

期日:平成20年3月27日～3月30日

場所:ナショナルトレーニングセンター

人員:スタッフ5名 選手18名

(U-21ヤングウーマン)

◎ 第1次強化合宿

期日:平成19年5月22日～5月26日

場所:シャンソン体育館

人員:スタッフ6名 選手12名

◎ 第2次強化合宿

期日:平成19年6月15日～6月20日

場所:シャンソン体育館

人員:スタッフ6名 選手12名

◎ 第3次強化合宿(イタリア遠征)

期日:平成19年6月21日～6月26日

場所:イタリア

人員:スタッフ5名 選手12名

◎ 第2回FIBA U-21世界選手権大会(ヤングウーマン)

期日:平成19年6月27日～7月10日

場所:モスクワ

人員:スタッフ7名 選手12名

成績:12チーム中 10位

《U-18》

本年度はU-19世界選手権大会へ向けての強化を中心に強化を行った。内容としては、海外での対応を考慮し、オーストラリア遠征を含めた強化を行い、世界選手権へ向かった。

ただし、大会へ向けてアジア予選時は全員高校生であったが、それぞれ実業団、大学へと所属しているため、環境の異なる活動をしながらの強化活動となった。

◎ 第1次強化合宿(オーストラリア遠征)

期日:平成19年3月31日～4月7日

場所:オーストラリア・AIS

人員:スタッフ6名 選手12名

◎ 第2次強化合宿

期日:平成19年5月7日～5月9日

場所:アイシンAW体育館

人員:スタッフ5名 選手12名

◎ 第3次強化合宿

期日:平成19年7月18日～7月22日

場所:ジャパンエナジー体育館

人員:スタッフ5名 選手12名

◎ 第7回FIBA U-19世界選手権大会

期日:平成19年7月26日～8月5日

場所:プラチスラバ スロバキア

人員:スタッフ7名 選手12名

成績:16チーム中 13位

◎ 第4次強化合宿

期日:平成19年9月15日～9月17日

場所:JAL体育館

人員:スタッフ17名 選手20名

《総括》

代表がオリンピックアジア予選を勝ち抜けなかったのは残念であったが、世界予選へ向けての道は残された形で終了した。予選では中国が若手を起用してきたが(ホスト国なためオリンピック出場は決定していたため)、韓国、台北、日本は力が接近している。中国がベストメンバーを揃えた場合は中国が頭ひとつリードと考えるのが現実であろう。

将来の強化展望としてはやはりこの4カ国での争いが予想されるため、なんとしても若手の底上げが必要になってくる。そういう意味ではU-21、U-19の世界選手権大会への参加は意義のあるものであった。いずれもアジア予選を勝ち抜いての出場であり、これら人材を継続的に強化活動を行っていくことが代表強化になることは間違いない。

ここ数年世界的に若年層の大会にシフトされてきており、日本でも代表～U-22～U-18～U-16とカテゴリーの再編成と継続性が求められている。

これに伴い、ナショナルトレーニングセンターの有効活用を含め、強化を進めていかななくてはならない。

また、次年度からFIBAではU-21大会が無くなるため、U-22カテゴリーの位置づけをユニバーシアードと次期代表候補メンバーとして再校正を行った。加えて従来の中中学生はエンデバーとして活動していたが、新しくU-16の大会が今後開催される予定になっており、高校、中学の塀を超えた強化の連動性が求められる。

いずれにしても、強化の計画性、連動性、継続性を踏まえて最終目標を「オリンピック」に据えて、各カテゴリーの強化を進めていきたい。

最後に、女子強化活動に対し、多面的に渡りご協力とご支援を賜りました関係各位と協会関係者の方々に感謝の意を申し上げますとともに、今後とも更なるご理解とご高配をお願いし、ご報告といたします。

(3) 医科学研究

医科学事業および研究

1. 国際競技会におけるチームドクターとしての活動;
 - 1) 女子・FIBA アジア選手権大会 (2007.06 韓国)
 - 2) 女子・FIBA U-21 世界選手権大会 (2007.06-07 ロシア)
 - 3) 男子・ジョーンズカップ (2007.07 タイペイ)
 - 4) 女子・ジョーンズカップ (2007.07 タイペイ)
 - 5) 女子・FIBA U-19 世界選手権大会 (2007.07-08 スロバキア)
 - 6) 男子・FIBA アジア選手権大会 (2007.07-08 徳島)
 - 7) 男子・女子・ユニバーシアード競技大会 (2007.08 タイ)

2. 海外遠征・国内合宿におけるチームドクターとしての活動;
 - 1) 男子Aチーム国内合宿
 - 2) 女子Aチーム海外遠征・国内合宿

3. 国際競技会・海外遠征・国内合宿におけるトレーナー派遣;
 - 1) 男子Aチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 2) 女子Aチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 3) 男子Bチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 4) 女子Bチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 5) 男子Cチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿
 - 6) 女子Cチーム海外遠征・国際競技会・国内合宿

4. 代表チームのメディカルチェック;男子Aチーム・Bチーム、女子Aチーム・Bチーム・Cチーム

5. 国内競技会における医事運営および救護活動;
 - 1) JBL2007-2008 シーズン主催試合
 - 2) WJBL2007-2008 シーズン主催試合
 - 3) 全日本学生選手権大会インカレ男子(2007.11-12)
 - 4) 全国高等学校選抜優勝大会ウインターカップ(2007.12)
 - 5) 全日本総合選手権大会オールジャパン(2007.01)
 - 6) 全国ミニバスケットボール大会(2008.03)

6. 国際競技会・国内競技会におけるドーピングコントロールの実施;
 - 1) 男子・FIBA アジア選手権大会 (2007.07-08 徳島)
 - 2) 全日本総合選手権大会オールジャパン(2007.01 東京)
 - 3) JBL/WJBL 2007-2008 シーズン主催試合(2007.02-03 東京)

7. 医科学研究委員会開催; 1)2007.04 2)2007.09 3)2008.03 ワーキンググループ会議開催; 随時

8. バスケットボール女子日本リーグ機構(WJBL)を対象とした外傷調査

9. 日本臨床スポーツ医学会と協力して、「WJBL 外傷予防プログラム 2007」の DVD 作成

10. その他の活動;

日本体育協会スポーツドクター代表者会議出席・養成講習会受講者推薦

日本体育協会アスレチックトレーナー養成講習会受講者推薦

ドーピングコントロールオフィサー養成講習会受講者推薦 など

(4) コーチコミッティー

● コーチコミッティー運営連絡会議

1) 平成 19 年 12 月 25 日@東京体育館

2) 平成 20 年 3 月 14 日@NTC

2. 競技会の開催

(1) 国内競技会

1. 『第26回全国ママさんバスケットボール交歓大会』

期 日：平成19年7月27日(金)～7月29日(日)

開催地：千葉県 船橋市

参加チーム：80チーム(一般：56チーム、シニア：24チーム)

順位および：<一般> 優勝チーム

試合結果	Aブロック	ハプティ・ダンプティ(千葉)	67-42	藤枝南 PLUMADE (静岡)
	Bブロック	湘南ローズ(神奈川)	66-56	アットホームズ(秋田)
	Cブロック	ブルーイズ・レッツ(埼玉)	76-20	ARASHI(大阪)
	Dブロック	WEDS(茨城)	42-39	オレンジクイーン(愛媛)
	Eブロック	TNK・響(神奈川)	39-31	ザ・マザーズ弥生(東京)
	Fブロック	コスモス(広島)	43-41	商工かつみクラブ(神奈川)
	Gブロック	Lazy Bones(茨城)	50-40	F. M. B. C(千葉)
	<シニア>優勝チーム			
	Hブロック	JBC(千葉)	33-29	長野クラブシニア(長野)
	Iブロック	ジョニーズmama(神奈川)	36-21	MS.(静岡)
	Jブロック	TOHKAシニア(岡山)	31-27	PARIS・D東京(東京)

2. 『平成19年度全国高等学校総合体育大会・第60回全国高等学校バスケットボール選手権大会』

期 日：平成19年7月29日(日)～8月3日(金)

開催地：佐賀県 唐津市

参加チーム：男子 59チーム 女子 59チーム

順位	優勝	県立能代工業高等学校(秋田)	桜花学園高等学校(愛知)
	準優勝	福岡大学附属大濠高等学校(福岡)	岐阜女子高等学校(岐阜)
	3位	福岡第一高等学校(福岡)	東京成徳大学高等学校(東京)
	3位	北陸高等学校(福井)	中村学園女子高等学校(福岡)
試合結果	準決勝	能代工業 81-70 福岡第一	桜花学園 75-63 東京成徳
	準決勝	福大大濠 104-98 北陸	岐阜女子 68-63 中村学園
	決勝	能代工業 95-89 福大大濠	桜花学園 66-43 岐阜女子

3. 『平成19年度第17回全国高等学校定時制通信制バスケットボール大会』

期 日：平成19年8月2日(木)～8月5日(日)

開催地：東京都 渋谷区

参加チーム：男子 46チーム 女子 35チーム

順位	優勝	東京都立上野高等学校(東京)	福岡県立博多青松高等学校(福岡)
	準優勝	開志学園高等学校(新潟)	横浜市立横浜総合高等学校(神奈川)
	3位	千葉県立船橋高等学校(千葉)	東京都立大江戸高等学校(東京)
	3位	神奈川県立湘南高等学校 通信制(神奈川)	天理高等学校 第二部(奈良)

試合結果：準決勝	都立上野 106-62	県立船橋	博多青松 150-37	都立大江戸
準決勝	開志学園 104-61	湘南(通)	横浜総合 62-49	天理(二部)
決勝	都立上野 95-92	開志学園	博多青松 80-72	横浜総合

4. 『DENSO CUP2007』

F I Dジャパン・チャンピオンシップバスケットボール大会(第12回)』

期 日：平成19年8月4日(土)～8月5日(日)

開催地：山口県 山口市

参加チーム： 男子Aグループ 8チーム 女子 7チーム

順位：優勝 神奈川(神奈川) 春日井クラブ(愛知)

準優勝 つばさクラブ(東京) つばさクラブ(東京)

3位 春日井クラブ(愛知) あいち(愛知)

試合結果：準決勝 神奈川 78-53 福学クラブ 春日井 51-48 あいち

準決勝 つばさ 61-36 春日井 つばさ 49-37 神奈川

3決 春日井 52-46 福学クラブ あいち 61-35 神奈川

決勝 神奈川 93-59 つばさ 春日井 73-44 つばさ

参加チーム： 男子Bグループ 8チーム

順位：優勝 大阪IDバスケットボールクラブ(大阪)

準優勝 福岡市バスケットボールクラブ HERO'S(福岡)

3位 春日井Jr(愛知)

試合結果：準決勝 大阪ID 85-40 九州ゆうあい

準決勝 HERO'S 90-37 春日井Jr

3決 春日井Jr 62-35 九州ゆうあい

決勝 大阪ID 78-49 HERO'S

5. 『第45回男子・第37回女子全日本教員バスケットボール選手権大会』

(第63回国民体育大会バスケットボール競技リハーサル大会)

期 日：平成19年8月8日(水)～8月11日(土)

開催地：大分県 中津市、大分市、宇佐市

参加チーム： 男子 39チーム 女子 25チーム

順位：優勝 福島A 千葉

準優勝 群馬 兵庫

3位 大阪 東京

3位 愛媛 石川

試合結果：準決勝 福島A 86-59 大阪 千葉 97-62 東京

準決勝 群馬 90-79 愛媛 兵庫 70-57 石川

決勝 福島A 90-86 群馬 千葉 89-54 兵庫

6. 『第37回全国中学校バスケットボール大会』

期 日：平成19年8月21日(火)～8月23日(木)

開催地：山形県 山形市、上山市、中山町、山辺町

参加チーム： 男子 24チーム

女子 24チーム

順位：優勝 山形市立第六中学校(山形)

八王子市立第一中学校(東京)

準優勝 京北中学校(東京)

埼玉栄中学校(埼玉)

3位 新発田市立本丸中学校(新潟)

白河市立白川中央中学校(福島)

3位 東海大学附属第四高等学校中等部(北海道)

京都精華女子中学校(京都)

試合結果：準決勝 山形第六 79-58 本丸

八王子一 52-47 白川中央

準決勝 京北 88-86 東海大四

埼玉栄 56-46 京都精華

決勝 山形第六 99-70 京北

八王子一 66-38 埼玉栄

7. 『第42回全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技』

期 日：平成19年8月23日(木)～8月24日(金)

開催地：愛媛県 四国中央市

参加チーム： 男子 12チーム

女子 8チーム

順位：優勝 松江工業高等専門学校(島根)

大島商船高等専門学校(山口)

準優勝 金沢工業高等専門学校(石川)

鈴鹿工業高等専門学校(三重)

3位 長岡工業高等専門学校(新潟)

宮城高等専門学校(宮城)

3位 佐世保工業高等専門学校(長崎)

神戸市立高等専門学校(兵庫)

試合結果：準決勝 松江高専 85-65 長岡高専

大島商船高専 82-48 宮城高専

準決勝 金沢高専 64-61 佐世保高専

鈴鹿高専 79-62 神戸市立高専

決勝 松江高専 77-70 金沢高専

大島商船高専 70-66 鈴鹿高専

8. 『第12回全国専門学校バスケットボール選手権大会』

期 日：平成19年8月25日(土)～8月28日(火)

開催地：広島県 広島市

参加チーム： 男子 16チーム

女子 12チーム

順位：優勝 アップルスポーツカレッジ(ASC)

大阪社会体育専門学校

準優勝 日本ウェルネススポーツ専門学校

日本ウェルネススポーツ専門学校広島校

3位 東京YMCA 社会体育・保育専門学校

トライデントスポーツ医療科学専門学校

試合結果：準決勝 ASC 97-54 日工八王子

大阪社体 106-57 体育大学北海道

準決勝 日本ウェルネス 95-82 東京YMCA

日ウエ広島 70-52 トライデント

3決 東京YMCA 88-66 日工八王子

トライデント 84-65 体育大学北海道

決勝 ASC 102-88 日本ウェルネス

大阪社体 102-74 日ウエ広島

9. 『日本スポーツマスターズ2007』

期 日 平成19年9月15日(土)～9月18日(火)

開催地：滋賀県 大津市

参加チーム：	男子 38チーム	女子 17チーム
順位：優勝	千葉	大阪
準優勝	東京	埼玉
3位	滋賀A	東京
3位	大阪	広島
試合結果：準決勝	千葉 65-31 滋賀A	大阪 77-51 東京
準決勝	東京 57-41 大阪	埼玉 67-58 広島
決勝	千葉 60-56 東京	大阪 64-62 埼玉

10. 『JBL CHALLENGE CUP 2007』

期 日 平成19年9月21日(金)～9月30日(日)

開催地：全国各地

参加チーム：8チーム

順位：優勝	アイシンシーホース
準優勝	パナソニックトライアンズ
3位	東芝ブレイブサンダース
3位	トヨタ自動車アルバルク
試合結果：準決勝	アイシン 72-67 東芝
準決勝	パナソニック 80-74 トヨタ
決勝	アイシン 78-71 パナソニック

11. 『第62回国民体育大会』

期 日：平成19年9月30日(日)～10月4日(木)

開催地：秋田県 能代市、三種町

参加チーム：	成年男子 16チーム	成年女子 16チーム
順位：優勝	千葉	秋田
準優勝	岐阜	熊本
3位	石川	千葉
3位	秋田	山口
試合結果：準決勝	千葉 87-69 秋田	秋田 86-66 千葉
準決勝	岐阜 75-72 石川	熊本 73-65 山口
決勝	千葉 110-92 岐阜	秋田 67-60 熊本

参加チーム：	少年男子 47チーム	少年女子 16チーム
順位：優勝	秋田	愛知
準優勝	福岡	東京
3位	東京	石川
3位	宮城	福岡

試合結果：準決勝	秋田	112-72	東京	愛知	67-40	石川
準決勝	福岡	68-62	宮城	東京	83-80	福岡
決勝	秋田	79-64	福岡	愛知	75-59	東京

12. 『第9回Wリーグ』

期 日：平成19年10月5日(金)～平成20年2月28日(金)

開催地：全国各地

参加チーム： Wリーグ 8チーム W1リーグ 5チーム

順位：優勝 富士通レッドウェーブ 三菱電機

準優勝 JOMOサンフラワーズ 荏原

3位 トヨタ自動車アンテロープス 甲府

4位 シャンソン化粧品 シャンソンVマジック 東京海上日動

試合結果：Wリーグ・プレイオフセミファイナル

第1戦 富士通 93-70 トヨタ JOMO 77-65 シャンソン

第2戦 富士通 79-68 トヨタ JOMO 81-72 シャンソン

Wリーグ・プレイオフファイナル

第1戦 富士通 70-65 JOMO

第2戦 JOMO 73-72 富士通

第3戦 富士通 78-55 JOMO

第4戦 JOMO 86-58 富士通

第5戦 富士通 (3勝2敗) 84-65 JOMO

13. 『日本バスケットボールリーグ2007-2008』

期 日 平成19年10月11日(木)～平成20年3月26日(水)

開催地 全国各地

参加チーム： 8チーム

順位：優勝 アイシンシーホース

準優勝 トヨタ自動車アルバルク

3位 オーエスジーフェニックス東三河

3位 三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ

試合結果：プレイオフセミファイナル (3戦先勝方式)

第1戦 アイシン 91-88 三菱 トヨタ 100-93 オーエスジー

第2戦 アイシン 70-60 三菱 トヨタ 95-77 オーエスジー

プレイオフファイナル (5戦先勝方式)

第1戦 アイシン 81-65 トヨタ

第2戦 トヨタ 82-76 アイシン

第3戦 アイシン 72-86 トヨタ

第4戦 トヨタ 69-88 アイシン

第5戦 アイシン (3勝2敗) 93-79 トヨタ

14. 『JBL2 2007-2008』

期 日 平成19年11月3日(土)～平成20年3月16日(日)

開催地 全国各地

参加チーム： 9チーム

順位：優勝 栃木ブレックス
準優勝 千葉ピアスアローバジャーズ
3位 石川ブルースパークス

試合結果：プレイオフ

セミファイナル	栃木	102-53	豊田通商
	千葉	82-72	石川
3決	石川	92-75	豊田通商
ファイナル	栃木	86-71	千葉

15. 『第3回全日本社会人バスケットボール選手権大会』

期 日：平成19年11月3日(土)～11月4日(日)

開催地：千葉県 船橋市

参加チーム： 男子 16チーム 女子 8チーム

順位：優勝	九州電力(実業団3位)	秋田銀行(実業団1位)
準優勝	新生紙パルプ商事(実業団5位)	鶴屋百貨店(実業団2位)
3位	横川電機(実業団1位)	山形銀行(実業団3位)

試合結果：準決勝	九州電力 82-79	横川電機	秋田銀行 87-65	千葉女子教員
準決勝	新生紙パ 94-77	ホシザキ	鶴屋百貨店 73-66	山形銀行
3決	横川電機 112-86	ホシザキ	山形銀行 98-52	千葉女子教員
決勝	九州電力 58-57	新生紙パ	秋田銀行 88-78	鶴屋百貨店

16. 『男子第59回・女子第54回全日本学生バスケットボール選手権大会』

期 日 女子：平成19年11月20日(火)～11月25日(日)

男子：平成19年11月26日(月)～12月2日(日)

開催地 女子：愛知県 名古屋市

男子：東京都 渋谷区

参加チーム： 男子 32チーム 女子 32チーム

順位：優勝	青山学院大学	大阪体育大学
準優勝	法政大学	大阪人間科学大学
3位	大東文化大学	筑波大学

試合結果：準決勝	青学大 97-86	大東大	大体大 65-56	筑波大
準決勝	法政大 107-99	東海大	大人科大 62-51	拓殖大
3決	大東大 75-73	東海大	筑波大 89-49	拓殖大
決勝	青学大 75-70	法政大	大体大 82-71	大人科大

17. 『第9回全国専門学校バスケットボール選抜大会』

期 日：平成19年12月14日(金)～12月16日(日)

開催地：大阪府 大阪市

参加チーム：	男子 9チーム	女子 7チーム
順位：優勝	関西	関西
準優勝	東京	東京
3位	中国	神奈川
試合結果：準決勝	関西 101-75 北海道	関西 101-64 中国
準決勝	東京 104-101 中国	東京 90-74 神奈川
3決	中国 116-94 北海道	神奈川 80-71 中国
決勝	関西 96-72 東京	関西 74-60 東京

18. 『JOMOウインターカップ2007 第38回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会』

期 日：平成19年12月23日(日)～12月29日(土)

開催地：東京都 渋谷区

参加チーム：	男子 48チーム	女子 48チーム
順位：優勝	洛南高等学校(京都)	桜花学園高等学校(愛知)
準優勝	福岡第一高等学校(福岡)	東京成徳高等学校(東京)
3位	県立能代工業高等学校(秋田)	山形市立商業高等学校(山形)
4位	明成高等学校(宮城)	聖カタリナ女子高等学校(愛媛)
試合結果：準決勝	洛南 102-72 能代工業	桜花学園 88-63 山形市商
準決勝	福岡第一 86-84 明成	東京成徳 88-73 聖カタリナ
3決	能代工業 87-62 明成	山形市商 75-59 聖カタリナ
決勝	洛南 78-73 福岡第一	桜花学園 89-68 東京成徳

19. 『第83回天皇杯・第74回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会』

期 日：平成20年1月1日(火)～1月14日(月)

開催地：東京都 渋谷区

参加チーム：	男子 32チーム	女子 32チーム
順位：優勝	アイシンシーホース	富士通レッドウェーブ
準優勝	トヨタ自動車アルバルク	JOMOサンフラワーズ
3位	日立サンロッカーズ	シャンソン化粧品
3位	東芝ブレイブサンダース	シャンソンVマジック
試合結果：準決勝	アイシン 91-75 日立	トヨタ自動車アンテロープス
準決勝	トヨタ 86-58 東芝	富士通 76-73 シャンソン
決勝	アイシン 85-82 トヨタ	JOMO 79-76 トヨタ自動車
		富士通 80-70 JOMO

20. 『第40回全日本実業団バスケットボール選手権大会』

期 日：平成20年2月15日(金)～2月18日(月)

開 催 地：愛知県 名古屋市

参加チーム： 男子 32チーム

女子 15チーム

順 位：優勝 横川電機

秋田銀行

準優勝 九州電力

山形銀行

3 位 新生紙パルプ商事

鶴屋百貨店

3 位 三井住友銀行

三井住友銀行

試合結果：準決勝 横川電機 78-55 三井住友

秋田銀行 74-68 鶴屋百貨店

準決勝 九州電力 78-76 新生紙パ

山形銀行 54-52 三井住友

決 勝 横川電機 73-65 九州電力

秋田銀行 73-67 山形銀行

21. 『第34回全日本クラブバスケットボール選手権大会』

期 日：平成20年3月8日(土)～3月10日(月)

開 催 地：香川県 高松市

参加チーム： 男子 32チーム

女子 28チーム

順 位：優勝 琴丘体協 (秋田)

LOWS (愛知)

準優勝 055 (三重)

KNC (石川)

3 位 HEDGE HOG (新潟)

With Spirits (北海道)

3 位 GROUSES.NET (富山)

JOIN (徳島)

試合結果：準決勝 琴丘体協 102-84 HEDGE HOG

LOWS 89-59 With Spirits

準決勝 055 90-78 GROUSES.NET

KNC 95-74 JOIN

決 勝 琴丘体協 89-73 055

LOWS 96-81 KNC

22. 『ジュニアオールスター2008

平成19年度 第21回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会』

期 日：平成20年3月28日(金)～3月30日(日)

開 催 地：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

参加チーム： 男子 48チーム

女子 48チーム

順 位：優勝 北海道

千葉

準優勝 千葉

東京B

3 位 東京B

山形

3 位 沖縄

茨城

試合結果：準決勝 北海道 60-53 東京B

千葉 56-39 山形

準決勝 千葉 58-53 沖縄

東京B 65-62 茨城

決 勝 北海道 69-59 千葉

千葉 71-44 東京B

23. 『第39回全国ミニバスケットボール大会』

期 日：平成20年3月28日(金)～3月30日(日)

開催地：東京都 渋谷区

参加チーム：男子 48チーム 女子 48チーム

順位および：＜男子＞ 優勝チーム

試合結果 Aブロック 村上イーグレッツ boy's (千葉) 30-28 芥子山バスケクラブ武士ジュニア (岡山)
Bブロック 佐野ミニバスクラブスポーツ少年団 (栃木) 45-42 七尾ブルドッグ (石川)
Cブロック 沼崎ミニバススポーツ少年団 (茨城) 35-30 太田郷 M B B C (熊本)
Dブロック 西陵ミニバススポーツ少年団 (鹿児島) 37-34 与野西北ミニバススポーツ少年団 (埼玉)

＜女子＞ 優勝チーム

Aブロック 浜松飯田ノーティドッグス (静岡) 36-29 高津ミニバスクラブ (愛媛2)
Bブロック 女池グローリーガールズ (新潟) 45-29 中津東部ミニバスクラブ (大分)
Cブロック 富貴島 M B C (千葉) 50-47 昭和ミニバスクラブ (愛知)
Dブロック 大畑ミニバススポーツ少年団 (青森) 39-32 豊島西ミニバスクラブ (大阪)

(2) 国体部

1 日体協「国体競技運営部会」

期日：平成19年6月21日

場所：岸記念体育会館 505号室

出席：日体協国体推進部、各種競技団体代表、柿沼国体部長

議題：参加資格と処分、ドーピングコントロール、22年千葉国体の会期、24年岐阜国体

開催を内定、大分国体要項、傷害保険制度、秋田国体のイベント事業

2 20年大分国体リハーサル大会

期日：平成19年8月7日～11日

場所：大分市コンパルホール体育室ほか

点検：器具、用具、施設、大会運営状況

3 21年新潟国体リハーサル大会打合せ

期日：平成19年8月8日

場所：大分市コンパルホール体育室

出席：日本協会、教員連盟、大分県協会・実行委員会、新潟県協会・実行委員会

議題：運営方法、経費負担等

4 秋田国体 組合せ抽選会

期日：平成19年9月8日、(事前打合せ：9月7日、瀧野辺総合病院)

場所：岸記念体育会館 504号室

出席：日体協、日本協会、秋田県協会、大分県協会ほか

5 秋田国体

期日：平成19年9月28日～10月4日

場所：能代市総合体育館ほか

○天覧試合：9/30 11:00～成年男子 秋田対新潟〔二ツ井町総合体育館〕

○ブロック長会議：10/1 20年大分国体からの規模縮小等変更点を説明

○イベント事業：10/3 体験教室（地元小中高生18名が参加）

6 25年東京国体 正規視察

期日：平成19年10月25日

場所：立川市泉市民体育館他4施設

出席：東京都協会、立川市、東村山市、小金井市、西東京市、武蔵野市、東京都
柿沼国体部長、松岡事務局長

内容：施設、設備・器具、宿泊施設、競技・審判・補助役員の育成状況等

7 23年山口国体 正規視察

期日：平成19年12月4日

場所：周南市総合スポーツセンター

出席：県協会、周南市協会、県国体準備室、周南市国体準備室、柿沼国体部長

内容：照明・観客席・駐車場・電光掲示・空調・床の状況等

8 日体協「国体実施競技選定に係るヒヤリング」

期日：平成20年3月13日

場所：岸記念体育会館 理事・監事室

出席：国体委員会（泉委員長、荒川副委員長、豊島委員）、柿沼国体部長、弘田担当

議題：競技種目数40、毎年・隔年実施競技、会期、企業協賛、公認コーチ等

(3) 日本スポーツマスターズ大会

1. 日本スポーツマスターズ2007年第1回実施中央競技団体連絡会議

期日：平成19年4月26日(木)14時

場所：日本体育協会理事・監事室

議題：①日本スポーツマスターズ2007の実施について

2. 平成19年度第1回日本スポーツマスターズ委員会

期日：平成19年6月11日(月)14時

場所：日本体育協会理事・監事室

議題：①平成19年20年度日本スポーツマスターズ委員会構成について

②日本スポーツマスターズ2007びわこ大会の準備状況について

③日本スポーツマスターズ2008高知大会の競技会場について

④日本スポーツマスターズ2009 静岡大会の会期及び実施競技について

3. 日本スポーツマスターズ2007びわこ大会組合せ抽選会

期 日:平成 19 年 8 月 2 日(木)13 時

場 所:岸記念体育館 504 号会議室

出 席:滋賀県協会・池本副理事長

日本 協会・今 豊

抽選会:男子 39 チーム・女子 17 チームについて、昨年の実績により男子 8 チーム
女子 4 チームをシードして、1 回戦で同一ブロックとの対戦を避ける予備抽選
を行い、その後順次本抽選を実施した。

4. 日本スポーツマスターズ委員会第 2 回実施中央競技団体連絡会議

期 日:平成 19 年 8 月 28 日(火)14 時

場 所:日本体育協会理事・監事室

議 題:①日本スポーツマスターズ 2007 開催最終確認について

5. 日本スポーツマスターズ 2007 びわこ大会開催

期 日:平成 19 年 9 月 14 日(金)～18 日(火)

場 所:滋賀県立体育館

大津市におの浜ふれあいスポーツセンター

参加チーム:男子 39 チーム・女子 17 チーム

6. 日本スポーツマスターズ 2008 高知大会会場視察

期 日:平成 19 年 10 月 19 日(金)13 時

場 所:高知県高知市

出席者:高知県協会・藤倉理事長・鍵本副理事長兼事務局長・市原事務局次長

高知県教育委員会事務局体育スポーツ課三谷主任指導主事

高知工科大学・服部教務学生部主事

日本 協会・今 豊

1) 視察施設:①高知市:運動場体育館・高知女子大学体育館

②香美市:高知工科大学

③香南市:県立青少年センター

<視察結果>

①についてはアリーナ・付属器具共に問題なし

②についてはコートエンドが狭いのと器具が不十分で不適とする

③についてはアリーナ・付属器具等全く問題なし

2) 運営体制:現状事務局の立ち上げだけなので今後の運営体制には協力して行く。

- 3) その他:①会場間の距離が遠いことから男子会場・女子会場に区分し開催する
②同じ理由で開始式と代表者会議を19日に実施する

7. 日本スポーツマスターズ委員会第3回実施中央競技団体連絡会

期 日:平成19年11月8日(木)16時

場 所:日本体育協会理事・監事室

議 題 ①日本スポーツマスターズ2007びわこ大会の終了について

②日本スポーツマスターズ2008高知大会について

3. 国際競技会の開催及び代表チームの派遣

(1) 国際(国内開催)

1. 『第30回李相佰杯争奪 日韓学生バスケットボール競技大会』

期 日:平成19年5月18日(金)～5月20日(日)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム: 男子 2チーム 女子 2チーム

順 位:優勝 韓国学生選抜(3勝) 日本学生選抜(3勝)

準優勝 日本学生選抜(3敗) 韓国学生選抜(3敗)

試合結果 :第1戦 韓国 87-73 日本 日本 85-70 韓国

第2戦 韓国 102-72 日本 日本 93-46 韓国

第3戦 韓国 67-81 日本 日本 93-57 韓国

2. 『第22回FIBAアジア女子バスケットボール選手権大会

(北京オリンピックアジア地区予選) 走行試合』

期 日:平成19年5月23日(水)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム:女子日本代表、女子リトアニア代表

試合結果 :日本 68-52 リトアニア

3. 『2007年日韓ママさんバスケットボール親善大会』

期 日:平成19年7月27日(金)～29日(日)

開 催 地:東京都 渋谷区

参加チーム:日本、韓国

試合結果 :ハプティ・ダプティ 66-63 韓国

韓国 75-55 金曜クラブ

4. 『第24回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会 北京オリンピックアジア地区予選』

期 日:平成19年7月28日(土)～8月5日(日)

開 催 地:徳島県 徳島市

参加チーム:16チーム

順位：優勝 イラン
 準優勝 レバノン
 3位 韓国
 8位 日本

試合結果：1次予選ラウンド
 日本 109-66 アラブ首長国連邦
 日本 77-67 レバノン
 日本(3勝) 101-48 クウェート
 2次予選ラウンド
 カザフスタン 93-85 日本
 韓国 93-83 日本
 日本(1勝2敗) 71-68 ヨルダン
 5~8位決定戦
 チャイニーズタイペイ 85-80 日本
 7位決定戦
 カタール 86-82 日本

5. 『2007日韓Wリーグチャンピオンシップ』

期 日：平成19年8月4日(土) コリアゲーム、8月8日(水) ジャパンゲーム

開催地：ジャパンゲーム：日本 東京、 コリアゲーム：韓国 安城

参加チーム：JOMOサンフラワーズ、新韓銀行 S-birds

順位：優勝 新韓銀行 S-birds (2勝)
 準優勝 JOMOサンフラワーズ (2敗)

試合結果：第1戦 新韓銀行 84-69 JOMO
 第2戦 新韓銀行 55-49 JOMO

(2) 国際(国外開催)

1. 『第22回FIBAアジア女子バスケットボール選手権大会 北京オリンピックアジア地区予選』

期 日：平成19年6月3日(日)~6月10日(日)

開催地：韓国 仁川

参加チーム：6チーム(レベルI)

順位：優勝 韓国
 準優勝 中国
 3位 日本

試合結果：1回戦総当りリーグ戦
 日本 72-67 中国
 日本 104-44 タイ
 日本 67-58 チャイニーズ・タイペイ
 韓国 90-68 日本
 日本(4勝1敗) 117-32 マレーシア
 準決勝
 中国 74-62 日本
 3位決定戦
 日本 73-70 チャイニーズ・タイペイ

2. 『第2回FIBA U-21女子バスケットボール世界選手権大会』

期 日：平成19年6月29日（金）～7月8日（日）

開催地：ロシア モスクワ

参加チーム：12チーム

順位：優勝 アメリカ
準優勝 オーストラリア
3位 フランス
10位 日本

試合結果：予選ラウンドグループB

ハンガリー	77-58	日本
日本	90-87	スペイン
ブラジル	85-72	日本
オーストラリア	91-72	日本
アメリカ	98-57	日本（1勝4敗）
9～12位決定戦	日本	74-62 中国
9位決定戦	スペイン	80-70 日本

3. 『第29回男子ジョーンズカップ』

期 日：平成19年7月2日（月）～7月10日（火）

開催地：チャイニーズタイペイ タイペイ市

参加チーム：10チーム

順位：優勝 ヨルダン
準優勝 レバノン
3位 フィリピン
10位 日本（2勝7敗）

試合結果：1回戦総当りリーグ戦

チャイニーズ・タイペイ	90-77	日本
カザフスタン	96-61	日本
日本	86-84	フィリピン
イラン	86-59	日本
カタール	86-68	日本
韓国	102-58	日本
アメリカ	108-83	日本
レバノン	82-74	日本
日本	104-102	ヨルダン

4. 『第29回女子ジョーンズカップ』

期 日：平成19年7月11日（水）～7月17日（火）

開催地：チャイニーズタイペイ タイペイ市

参加チーム：7チーム

順位：優勝 オーストラリア代表

準優勝 チャイニーズ・タイペイ ブルー

3 位 ニュージーランド代表

7 位 U-24 日本代表 (6敗)

試合結果	: 1回戦総当りリーグ戦	オーストラリア代表	120-59	日本
		チャイニーズ・タイペイ ブルー	90-80	日本
		アメリカ代表	114-72	日本
		ニュージーランド代表	99-71	日本
		チャイニーズ・タイペイ ホワイト	96-77	日本
		韓国代表	76-72	日本

5. 『第7回FIBA U-19女子バスケットボール世界選手権大会』

期 日:平成19年7月26日(木)~8月5日(日)

開催地:スロバキア プラチスラバ

参加チーム:16チーム

順位:優勝 アメリカ

準優勝 スウェーデン

3 位 セルビア

13位 日本

試合結果	: 1次予選ラウンドグループC	チェコ	109-91	日本
		カナダ	74-72	日本
		セルビア	103-89	日本(3敗)
	13~16位決定戦	日本	87-72	マリ
	13位決定戦	日本	74-72	アルゼンチン

6. 『第24回ユニバーシアード競技大会』

期 日:平成19年8月7日(火)~8月18日(土)

開催地:タイ バンコク

参加チーム:男子 24チーム 女子 16チーム

順位:優勝 リトアニア 優勝 オーストラリア

準優勝 セルビア 準優勝 ロシア

3 位 カナダ 3 位 ポーランド

4 位 日本 10位 日本

試合結果 : (男子)

予選フェーズCグループ	日本	63-53	ウクライナ
	日本(2勝)	74-73	ブラジル
第2フェーズKグループ	日本	81-65	ギリシャ
	日本	75-67	ドイツ
	日本(3勝)	63-53	ウクライナ *予選フェーズから持ち越し
第3フェーズ 準々決勝	日本	72-71	韓国

第3フェーズ 準決勝	セルビア	76-62	日本
第3フェーズ 3位決定戦	カナダ	90-84	日本
(女子)			
予選フェーズBグループ	ロシア	102-61	日本
	アメリカ	93-86	日本
	日本(1勝2敗)	93-65	ラトビア
第2フェーズHグループ	日本	83-53	韓国
	モザンビーク	79-76	日本
	日本(2勝1敗)	82-75	ブラジル
第3フェーズ9~12位決定戦	日本	84-79	中国
第3フェーズ 9位決定戦	セルビア	86-81	日本

7. 『第15回日・韓・中ジュニア交流競技会』

期 日：平成19年8月23日(木)～8月27日(月)

開催地：中国 広西チワン族自治区 桂林市

参加チーム：男子 4チーム U-18 日本代表、韓国、中国、広西桂林

女子 4チーム U-18 日本代表、韓国、中国、広西桂林

順位：	男子	女子
優勝	中国 (3勝)	優勝 中国 (3勝)
準優勝	広西桂林 (1勝2敗)	準優勝 日本 (2勝1敗)
	日本 (1勝2敗)	3位 韓国 (1勝2敗)
	韓国 (1勝2敗)	4位 広西桂林 (3敗)
試合結果：	韓国 80-75 日本	日本 67-53 韓国
	日本 86-82 広西桂林	日本 97-42 広西桂林
	中国 85-66 日本	中国 87-65 日本

4. 国際関係

<国際部>

1. 国内開催各大会等の支援

- 1) 女子日本代表国際大会(5月23日)東京
- 2) 第24回FIBAアジア男子選手権大会兼北京オリンピックアジア地区予選(7月28日～8月5日)徳島市

2. 国外大会参加チームの支援

- 1) 第22回FIBAアジア女子選手権大会兼北京オリンピックアジア地区予選(6月3日～6月10日)仁川
- 2) 第2回FIBA U-21女子世界選手権大会(6月29日～7月8日)モスクワ
- 3) 第7回FIBA U-19女子世界選手権大会(7月26日～8月5日)プラチスラバ
- 4) 第29回女子ジョーンズカップ(8月4日～8月5日)タイペイ
- 5) 第24回ユニバーシアード競技大会(8月8日～8月18日)バンコク
- 6) 第29回男子ジョーンズカップ(8月11日～8月19日)タイペイ

3. 国際会議等出席・来日外国関係者対応等

- 1) FIBAアジア東アジアサブゾーン協会(6月10日:韓国・仁川)
- 2) FIBAアジア常務理事会・東アジアサブゾーン会議(10月24日:マレーシア・ペナン)
- 3) FIBAアジア事務総長(11月21日:神戸)
- 4) FIBAアジア常務理事会・東アジアサブゾーン会議(2008年1月27日:マレーシア・クアラルンプール)

4. FIBAおよびFIBAアジア等関係者対応

- 1) FIBAオセアニアゾーン・タヒチ協会会長(4月27日:東京)
- 2) フィリピン学生バスケットボール連盟役員(10月6日:東京)
- 3) タイ選抜チーム(2008年3月20日～25日:鹿児島・大分)

【注】

- 1) 日常の諸業務については省略。
- 2) 第24回アジア男子選手権における諸業務も省略。

5. 講習会及び指導者養成

(1) 公認スポーツ指導者養成

1. 公認スポーツ指導者養成事業

- 1) 都道府県協会主催公認指導員養成講習会開催支援(運営指導、講師派遣援助等)
- 2) コーチ養成講習会開催

日程:平成20年3月11日～15日/場所:ナショナルトレーニングセンター

2. JABBA 公認コーチ制度事業

- 1) 都道府県協会主催 JABBA 公認コーチ養成講習会開催支援(運営指導、講師派遣援助等)
- 2) JABBA 公認コーチ認定登録業務、更新登録業務、その他付帯業務

3. 日本体育協会との連絡会議

- 1) 平成19年4月13日 第1回全国スポーツ指導者連絡会議@岸記念体育会館 講堂
- 2) 平成19年12月7日 第2回全国スポーツ指導者連絡会議@岸記念体育会館 講堂

4. 指導者育成委員会

- 1) 平成20年3月11日 指導者育成運営ミーティング@ナショナルトレーニングセンター

(2) 規則・審判事業

<規則部>

1. 競技規則の制定

- ①競技規則書の発行 (2007～)
- ②競技規則書発行に伴うFIBAからの伝達文書等の和訳、編集等。
- ③認定審判ウェア規定
- ④ユニフォーム規定

<審判部>

1. 全国審判長会議

期日:平成19年3月31日(土)～4月1日(日)

参加者:全国審判長、ブロック長、審判指導員、審判審査委員、審判部会メンバー

場所:東京

内容:①平成18年度審判部会事業報告及び19年度事業計画発表

②平成18年度審判部会決算報告及び19年度予算報告発表

③競技規則変更点等の講義、規則に関する質疑応答

④日本協会公認審判審査委員会及び各連盟、委員会からの報告

⑤ブロック別審判長会議

⑥指導に関するグループ別ディスカッション

⑦レフリング解析ソフト・デモンストレーション

2. ブロック長会議

期日：第1回 平成19年3月31日（土）（東京）

第2回 平成19年9月29日（土）（能代市）

参加者：各ブロック審判長（10名）、及び審判部長、副部長、総務委員他

内容：①各ブロックの状況報告

②19年度第1次A級指名強化招集者の選考、女性（A級）審判強化合宿招集者の選考

③A級及び女性審判の指導育成について

④19年度下半期の行事の確認及び、20年度行事案の検討（第2回開催時）

3. A級審判員研修合宿

期日：平成19年5月12日（土）～5月13日（日）九州ブロック その①（別府市）

平成19年6月16日（土）～6月17日（日）四国ブロック その①（高知市）

平成19年6月23日（土）～6月24日（日）北海道ブロック その①（帯広市）

平成19年6月30日（土）～7月1日（日）関東ブロック その①（佐倉市）

平成19年6月30日（土）～7月1日（日）東京ブロック（東京都内）

平成19年7月7日（土）～7月8日（日）九州ブロック その②（別府市）

平成19年7月21日（土）～7月24日（火）東海ブロック（豊田市）

平成19年8月18日（土）～8月19日（日）関東ブロック その②（深谷市）

平成19年8月25日（土）～8月26日（日）東北ブロック その①（会津若松市）

平成19年8月25日（土）～8月26日（日）北信越ブロック その①（福井市）

平成19年10月20日（土）～10月21日（日）中国ブロック（笠岡市）

平成19年11月17日（土）～11月18日（日）北海道ブロック その②（江別市）

平成20年1月26日（土）～1月27日（日）北信越ブロック その②（白山市）

平成20年2月3日（土）～2月4日（日）東北ブロック その②（青森市）

平成20年2月9日（土）～2月10日（日）四国ブロック その②（高松市）

平成20年2月16日（土）～2月17日（日）近畿ブロック（大津市）

講師：審判部指導委員会

参加者：A級公認審判員

内容：A級公認審判員としての意識向上と技術の全国標準化を図るための研修会（研修内容は各ブロック主導で企画）派遣要請のあったブロックに講師派遣。

4. FIBA-ASIA クリニック（国際審判員新規受験及び資格更新検定等）

期日：平成19年12月15日（土）～17日（月）

場所：シンガポール

講師：Lubomir Kotleba氏（FIBA・スポーツディレクター）

参加者：蒲 健一（東京）国際審判員新規受験（合格）オブザーバー 橋本信雄（東京）

内容：講義、審判実技テスト、英文ルールテスト、語学カテスト、体カテスト

5. A級強化合宿（フレッシュマン研修）

期日：平成19年4月29日（日）～4月30日（月）

場所：東京（府中市）

講師：審判部指導委員会

参加者：平成19年度A級公認男性新規昇格者14名

内容：新規昇格者を対象に実戦の試合を通して審判技術の向上等を研修すると共に、評価の高い者を第2次A級指名強化合宿へ推薦

6. 第1次A級指名強化合宿

期日：平成19年5月3日（土）～5月5日（金）

場所：東京（府中市）

講師：審判部指導委員会

参加者：男性A級公認審判員33名（ブロックからの推薦者）

内容：実戦ゲームにより判定基準、ゲームコントロール等を再度評価し、第2次A級指名強化合宿への推薦。

7. 女性審判強化合宿

期日：平成19年7月20日（金）～7月24日（火）

場所：愛知県豊田市（WJBL サマーキャンプ）

講師：審判部指導委員会

参加者：21名（女性A級、AA級対象）

内容：WJBLゲームの実技を通して、判定基準の確立を研修。その他、チームスタッフとのミーティング等を実施。

8. AA級強化研修合宿（男性）

期日：平成19年7月20日（金）～7月24日（火）

場所：愛知県豊田市（WJBL サマーキャンプ）

講師：審判部指導委員会

参加者：男性AA級公認審判員（WJBL 割当中心者）

内容：前年度シーズンの反省、WJBLゲームの実技研修、チームスタッフとのミーティング、ルールの確認作業等を実施。

9. 第2次A級指名強化合宿

期日：平成19年9月8日（土）～9月9日（日）

場所：東京都内

講師：審判部指導委員会

参加者：男性は第1次及びA級強化合宿から選抜（12名）

女性は女性審判強化合宿から選抜（2名）

内容：1泊2日形式にて実施。実戦ゲームにより判定基準、ゲームコントロール等を再度評価し、全員をAA級審査会へ推薦。

10. AA 級審査会

期日：平成 19 年 10 月 13 日（土）～10 月 14 日（日）

場所：東京都内

講師：審判部指導委員会

参加者：A 級公認審判からの選抜者（男性 12 名、女性 2 名）

内容：第 2 次 A 級指名強化合宿からの推薦者が参加。1泊2日形式にて実施し、実戦ゲームを吹かせ、技術の理解、ゲームコントロール等を評価し次期 AA 級候補者を推薦（最終的に、男性 4 名、女性 1 名を 20 年度新規 AA 級に推薦）

11. AA 級指名強化合宿（男・女）

期日：平成 19 年 4 月 29 日（日）～4 月 30 日（月）

場所：東京都内

講師：審判部指導委員会

参加者：AA 級公認審判員から男性 11 名、女性 2 名

内容：AA 級公認審判員の中から次期国際審判員受験有資格者と平成 19 年度新規昇格者を指名し、審判技術の向上及び指導力の向上を目的とした講習会。

実技テスト、体力テスト、英文ルールテスト、英会話テスト、ミーティングを実施。（男性 1 名を FIBA-ASIA レフェリークリニックへ推薦）

12. ヤングオフィシャルキャンプ・2007

期日：平成 19 年 8 月 10 日（金）～8 月 12 日（日）

場所：埼玉県上尾市

講師：Zamogski Jakub 氏（FIBA/ポーランド）

審判部指導委員会

参加者：全国から 25 歳以下の日本公認審判員 44 名（自費参加）

内容：全国の若手公認審判員を対象に早い段階での上級・国際審判員への動機づけを行うと共に、基本的な審判法、ルールの確認、審判員としての心構えを指導。埼玉県内高校チームによる練習試合の実戦他、英会話講義、英文ルール、Zamogski Jakub 氏による講話。

13. 国際審判員研修会（新規事業）

期日：平成 20 年 1 月 12 日（土）～1 月 14 日（月）

場所：東京都内

講師：Mildenhall William 氏（FIBA/オーストラリア）

審判部指導委員会

参加者：国際審判員を中心とした、AA 級審判員

内容：オールジャパンの実戦ゲームによる実技研修、審判技術の向上及び判定基準、ゲームコントロールの確立。外国人講師及び審判部指導委員会、規則委員会による講義、DVD 研修等で、日本のトップレベルの審判員としての意識・技術向上を目的とした講習会。

14. その他

(1) 大会指導・評価活動

審判指導委員会によるインターハイ、ウインターカップ、国体、インカレ、オールジャパン等の国内主要大会での審判指導を実施。15年度より設置された評価委員会による、AA級審判員の公式戦（JBL、WJBL、インターハイ、国体、インカレ等）における評価（採点方式）の活動。

(2) 海外派遣

各国際大会への審判、コミッショナー派遣、男女代表海外遠征の帯同、アメリカ NBA サマーリーグ研修、ユーロリーグ系キャンプ審判派遣、FIBA 指名審判・コミッショナー派遣、各国からニュートラル審判派遣等。

(3) 日本協会主催大会における審判員派遣

全日本総合選手権大会等、国内における日本協会主催大会への審判員派遣。

(4) 各ブロック・各都道府県からの講師派遣

各ブロックや各都道府県から依頼の審判指導やT・O指導に関する講師派遣。

(3) 公認審判審査

1. 全国審判長会議（平成20年3月22日～23日）

審査規約と年間計画等の説明

2. A級研修合宿（平成19年5月12日～平成20年2月17日）

全国10ブロック10会場で開催。

ブロックの審査委員は、関連するブロックの研修会に参加しA級審判の実状を観察する。

A級強化合宿へ推薦する候補者の資料を作成する。

3. A級強化合宿（A級フレッシュマン研修合宿）（平成19年4月28日～4月30日）

東京（トヨタ府中スポーツセンター）で実施。

今年度、A級に昇格した全国の審判の実状を把握する。

4. 女性審判強化合宿（平成19年7月20日～23日）

愛知県スカイホール豊田で実施

全国の女性審判の実状を把握する。

5. A級指名強化合宿（平成19年9月7日～9日）

AA級候補者の実状を把握し、審査等の資料とする。

6. A級審査会

全国10ブロック10会場で開催。

ブロックの審査委員長と審査委員及びブロック審判長とでA級審判の候補者を選出する。

7. AA級審査会（平成19年10月13日～14日）

東京で開催。

AA級候補者の評価を行う。

8. 審査委員会（平成20年1月13日～14日）

事業報告、事業計画等

昇格、降格の審査を行う。

6. 施設、用具の認定

用具・設備委員会

①検定工場会との合同委員会

用具・設備規格について10回（分科会含む）

②バスケット・ボール用具・設備規格書編集委員会

10回（分科会含む）

③バスケット・ボール用具・設備規格集を改訂

7. 総務

1) 事務局を核とした、円滑な協会運営を企図した。

①各種会議（理事会・評議員会等）を定期的に行い、円滑な運営を図った。

[平成19年度/理事会、評議員会]

* 4月—①理事会：4/11（水）、臨時理事会：4/19（木）、臨時評議員会：4/22（日）〈流会1〉

* 5月—②理事会：5/16（水）、臨時評議員会：5/27（日）〈流会2〉

* 6月—③理事会：6/13（水）、臨時理事会：6/19（火）、臨時理事会（前）：6/24（日）

①評議員会：6/24（日）〈流会3〉、④理事会（後）：6/24（日）

* 7月—⑤理事会：7/11（水）、臨時理事会：7/22（日）、臨時評議員会：7/22（日）〈流会4〉

* 8月—開催なし

* 9月—⑥理事会：9/12（水）

* 10月—①ブロック長会議①：10/1（月）、⑦理事会：10/12（金）

* 11月—⑧理事会：11/14（水）、臨時理事会（前）：11/25（日）、

臨時評議員会：11/25（日）〈流会5〉、臨時理事会（後）：11/25（日）、

臨時理事会（前後）：11/29（木）、臨時評議員会：11/29（木）

* 12月—⑨理事会：12/12（水）

* 1月—臨時理事会（前後）：1/7（月）、臨時評議員会1/7（月）〈流会6〉、

臨時理事会（前後）：1/19（土）、臨時評議員会：1/19（土）〈流会7〉

⑩理事会：1/23（水）、②ブロック長会議：1/26（土）〈中止〉

* 2月—臨時理事会（前）：2/9（土）、臨時評議員会：2/9（土）、⑪理事会：2/13（水）

臨時理事会（前、中）：2/24（日）、臨時評議員会：2/24（日）

* 3月—臨時理事会（前、中）：3/2（日）、臨時評議員会：3/2（日）、⑫理事会：3/5（水）

⑬理事会（前、後）：3/23（日）、②評議員会：3/23（日）〈流会8〉

②都道府県協会をはじめ外部団体との窓口業務の円滑な運営を図った。

③各役職・各セクションとの連携によって運営の円滑化を図った。

④チーム加盟・競技者登録に関して、事務局の要請に応じ、入力・カード制作作業の調整を行い、その円滑化を図った。

8. 広報

1. 第24回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会（2008年北京オリンピックアジア地区予選）対応
大会前は徳島県協会と連携を図り、男子日本代表の露出、大会告知、番組出演等（四国放送、NHK徳島、エフエムびざん等）の協力を行った。大会の事前情報発信・準備としてはプレスリリースの配信、大会公式ホームページの作成、大会ガイドブックの作成、大会メディアアクレディテーションの案内および取りまとめ等を実施した。また大会公式プログラムはFIBAアジアからの指導に則り、大会前日の7月27日代表者会議同日に全選手個人写真撮影を実施し、代表者会議に提出された最終エントリーを反映した形で7月27日中に全エントリー選手・スタッフ名を日本語表記にするなど原稿の作成、校正を同27日じゅうに行い、8月1日に完成した。

大会期間中は広報委員を現地に派遣し、メイン会場のアスティとくしまと徳島市立体育館の2体制に分かれて、メディアセンターの運営、メディアの管理、ミックスゾーン対応、記者会見等を行った。

またホストブロードキャスターのJ SPORTSと放送権、国際映像制作体制等について精査をし、中継対応やフラッシュインタビュー対応等を行った。

2. 記者発表

国内大会、国際大会について関係各位（特に男女強化部、事業部、国際部など）と協力し、大会前に大会要項、組合せ、出場選手リストなどの記者発表資料を作成、記者発表及び記者会見を実施した。

今年度の日本代表は男女とも北京オリンピックアジア地区予選であるアジア選手権開催年であり、オリンピック出場権獲得が懸かる大会ということでメディアの注目度は高く、記者会見、強化合宿とも多くの露出がなされた。

理事会終了後、理事会承認事項についてのレクチャーを実施した。

3. プレス対応

日本代表合宿で公開練習日を設定して積極的に取材を受け付けた。また、各大会期間中の試合結果を迅速に各報道機関へ連絡し、テレビ・新聞・雑誌等への掲載拡大に努めた。男女強化部・事業部の協力のもと、男女日本代表の合宿・記者会見時に集合写真や個人写真を撮影し、報道関係からのリクエストに応じて配布。過去の記録の整理を行い問い合わせに対応した。

代表チームと連動し、代表チーム広報として国内合宿や国際大会の取材対応や結果報道を実施した。男子日本代表マネージャーと兼任、女子日本代表は専任広報としてFIBAアジア選手権兼北京オリンピックアジア地区予選に帯同した。また派遣が不可能な遠征、大会については代表チームから情報提供を受け国内で情報を報道関係に配信して記事掲載を促した

また、第24回FIBA男子アジア選手権兼北京オリンピックアジア地区予選を徳島県で開催したことによりメディアの関心が高まり、多くのメディアが来場した。

国内大会では例年どおり、オールジャパン（全日本総合選手権大会）を中心に対応を行った。

4. 資料の整理及び管理

各大会終了後の結果等の整理を行いJABBA-NET (<http://www.jabba-net.com/>) および各大会公式サイトでの公開作業を実施するとともに年度のまとめとして協会報を製作している。

5. 広報支援活動

各大会への広報部員の派遣により、広報業務が円滑に進むように各組織と連携して業務の遂行に努めた。国際大会では前述の第24回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会(2008年北京オリンピックアジア地区予選)に広報部員を派遣した。

国内大会では第26回全国ママさん交歓大会、第60回全国高校選手権大会、第37回全国中学校大会などへ広報部員を派遣した。

6. 広報部会・委員会の開催

部会開催により部員相互の情報の共有化を図り、各種大会の準備、担当者の決定等、円滑な業務遂行に努力した。

7. JABBA-NETの運用(インターネット <http://www.jabba-net.com/>)

1997年にJABBA INTERNET (<http://www.jabba.or.jp/>)として準備・運用開始。2000年8月のリニューアル以来順調にページビューを増やしており活用が促進されている。今年はいくまでの継続でオールジャパンやウインターカップなどの主要大会でリアルタイムで更新されるスコアボードを実施した。また試合結果をメール配信するなど新規プロジェクトにも取り組んだ。

都道府県および加盟団体との連携でJABBA-NETで公式サイトを開設した公式サイトも着実に増加し、28都道府県協会と過半数の都道府県協会での利用が進んでいる。公式ウェブサイトのもつブランド力と情報提供のツールとしての有効性が認識され、今後のインターネット関連事業の発展の重要性を示していると考えられる。

また、引き続き、全国の都道府県協会および加盟団体などと連携しバスケットボールのオンライン上での発展のため、専門家及び有識者の協力を得て運営していく。

8. 協会報の作成

平成18年度協会報(第38号)を作成中。

9. 普及

<ミニ連盟>

1. ミニブロック大会

ミニバスケットボールの普及・発展と児童にバスケットボールの面白さ、喜びを与えると共に技術の向上を身につけてもらうことを目的に、各都道府県がそれぞれの立場でミニブロック大会を実施した。

<全国9ブロック>

北海道:(28回)7月27日~29日 北海道・函館市、北斗市

東北:(27回)3月1日~2日 岩手県・一関市

北信越:(27回)12月22日~23日 富山県・黒部市

関東:(29回)1月12日~14日 茨城県・ひたちなか市

東海:(30回)12月22日~23日 愛知県・豊橋市

近畿:(32回)3月1日~2日 奈良県・奈良市

中国:(27回)12月26日～28日 広島県・呉市
四国:(29回)8月18日～19日 高知県・吾川郡春野町
九州:(28回)1月12日～14日 沖縄県・那覇市

2. 第9期 平成19年度アシックスミニバスケットボール教室

期日:平成19年4月1日～平成20年3月31日

開催地:山梨県(19.4.21-22) 神奈川県(19.4.21-22) 滋賀県(19.5.12-13)
愛知県(19.5.12-13) 奈良県(19.6.2-3) 長野県(19.6.9-10)
岡山県(19.6.23-24) 福井県(19.7.7-8) 兵庫県(19.7.14-15)
群馬県(19.7.28-29) 福岡県(19.8.18-19) 新潟県(19.8.25-26)
和歌山県(19.9.8-9) 沖縄県(19.9.8-9) 高知県(19.9.15-16)
大阪府(19.10.20-21) 宮崎県(19.12.1-2) 鹿児島県(19.12.15-16)
大分県(20.1.26-27) 三重県(20.2.9-10) 富山県(20.2.16-17)
佐賀県(20.3.1-2) 中央講習会・神奈川県(20.3.8-9) 石川県(20.3.22-23)

<中学生連盟>

1 常任理事会

○期日・場所 平成19年6月30日(土) 台東区忍岡中学校会議室

参加者 連盟常任理事20名

内容 (1) 全国中学生バスケットボール連盟の組織と活動
(2) 各都道府県中学生連盟の設立と活動の状況
(3) 日本協会報告(理事会, 評議委員会報告, 世界選手権, エンデバー計画等)
(4) 普及技術事業, 審判技術向上の活動について
(5) 登録の推進について
(6) 都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会の反省と予定について

○期日・場所 平成19年12月1日(土) 台東区忍岡中学校会議室

参加者 連盟常任理事20名

内容 (1) 日本協会報告(評議委員会, 強化等)
(2) 第21回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会について
(3) U-15エンデバー計画, U-16強化計画について
(4) 来年度全国中学校大会(新潟)について
(5) 各都道府県中学生連盟の設立と活動の状況とオールスターチームの人数について等

○期日・場所 平成20年3月27日(木) 東京体育館第3会議室

参加者 連盟常任理事20名

内容 (1) 全国中学生連盟の今年度の活動報告
(2) 全国中学生連盟の来年度の活動計画
(3) 日本協会報告(理事会・評議委員会等)
(4) 第21回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会について

- (5) U-15エンデバー計画, U-16強化計画について
- (6) 登録の推進について
- (7) 審判部より講習会の報告

- 2 理事会 平成20年3月27日(木) 東京体育館第1会議室
- 内容
- (1) 全国中学生連盟の活動報告
 - (2) 全国中学生連盟の来年度の活動計画
 - (3) 日本協会報告, 普及部中学委員会報告
 - (4) 第21回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会について
 - (5) U-15エンデバー計画, U-16強化計画について
 - (6) 登録の推進について
 - (7) 審判部より講習会の報告

- 3 (財)日本中体連バスケットボール競技部と普及部中学生連盟との合同会議
- 期日・場所 平成19年8月22日(水) 山形ホテルキャッスル会議室
- 参加者 連盟常任理事14名
- 内容
- (1) 全国中学生バスケットボール連盟の活動についての説明
 - (2) 次年度の全国大会の確認
 - (3) 日本協会報告
 - (4) 審判技術の向上と育成について
 - (5) 都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会の大会概要と運営について

- 4 都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会帯同審判講習会
- 期日・場所 平成20年3月27日(木) 東京体育館

- 5 優秀選手の選考(ベスト5)
- 全国大会
- 期日・場所 平成19年8月21日(火)~23日(木) 山形市総合スポーツセンターほか
- ジュニアオールスター
- 期日・場所 平成20年3月28日(金)~30日(日) 東京体育館ほか

<クラブ連盟>

1. 第2回全日本クラブバスケットボール東西オールスター

平成19年5月27日(日) 9:30~ 東大阪市・東大阪アリーナ

優勝(男子) 東軍 (女子) 西軍
2. H19年・10月~H20年・2月

第34回全日本クラブバスケットボール選手権大会ブロック予選会日程

・北海道ブロック 平成19年9月15日~17日 北海道・旭川市

・東北ブロック	平成19年11月16日～18日	秋田県三種町
・関東ブロック	平成20年2月16日～17日	埼玉県さいたま市
・北信越ブロック	平成20年2月9日～10日	石川県金沢市
・東海ブロック	平成20年2月10日～11日	静岡県掛川市
・近畿ブロック	平成20年1月26日～27日	兵庫県神戸市
・中国ブロック	平成20年1月26日～27日	岡山県岡山市
・四国ブロック	平成20年1月26日～27日	香川県高松市
・九州ブロック	平成20年2月9日～10日	福岡県福岡市

***第3回全日本社会人バスケットボール選手権大会**

平成19年11月3日(祝・土)～4日(日) 千葉県船橋市

優勝(男子) 九州電力(実業団③・九州) (女子) 秋田銀行(実業団①・東北)

3. 平成19年度日本クラブバスケットボール連盟 常任理事会

平成19年5月26日(土) 大阪市東淀川区(新大阪丸ビル本館会議室)

平成19年11月3日(祝・土) 千葉県船橋市(船橋グランドホテル会議室)

平成20年3月7日(金) 香川県高松市(高松国際ホテル会議室)

4. 平成20年2月22日(金)

第34回全日本クラブバスケットボール選手権大会組合せ抽選会(香川大会)

於 日本バスケットボール協会 岸記念体育会館会議室

日本バスケットボール協会:競技部長、普及部長、広報部長、事務局長、事務局員

日本クラブバスケットボール連盟:理事長、競技委員会、総務委員長・事務局長

開催県(香川県):山田 司 香川県クラブバスケットボール連盟理事長ほか

5. 平成20年3月7日(金)

平成19年度日本クラブバスケットボール連盟 審判講習会

・審判講習会 14:30～18:00 高松市総合体育館

・ブロック審判委員長会議 18:00～ 高松市総合体育館会議室

6. 平成20年3月8日(土)

第34回全日本クラブバスケットボール選手権大会(第1日目)

高松市総合体育館・香川県立体育館・高松市香川総合体育館

・開会式・代表者会議 9:00～ 高松市国際ホテル会議室

・審判会議 9:30～ 高松市国際ホテル会議室

・ゲーム開始 10:30～ 高松市総合体育館・香川県立体育館

11:00～ 高松市香川総合体育館

7. 平成20年3月8日(土)

・理事会(正副会長・常任理事・各県選出理事) 15:30～18:00 高松市国際ホテル会議室

・全体審判会議 18:30～ 高松市国際ホテル会議室

8. 平成20年3月9日(日)

第34回全日本クラブバスケットボール選手権大会(第1日目)

高松市総合体育館・香川県立体育館・高松市香川総合体育館

・ゲーム開始 9:30～

・各委員長会議・ブロック長会議11:00～

高松市総合体育館会議室

9. 平成20年3月10日(月)

第34回全日本クラブバスケットボール選手権大会(最終日) 高松市総合体育館

・ゲーム開始 9:30:～

・表彰式・閉会式 大会終了・16:30

優勝(男子) 琴丘体協(東北1位・秋田) (女子) LOWS(東海1位・愛知)

<家庭婦人連盟>

1. 全国大会

* 第26回全国ママさんバスケットボール交歓大会

期日 平成19年7月27日(金) 28日(土) 29日(日)

場所 千葉県 船橋市 船橋市総合体育館・他

* 第6回全国ゴールデンシニアバスケットボール大会

(ねんりんピック協賛イベント)

期日 平成19年11月10日(土) 11日(日)

場所 茨城県 日立市 日立製作所大甕(おおみか)体育館・日立市立久慈中学校

2. 国際交流大会

* 日韓ママさんバスケットボール親善大会

期日 平成19年7月27日(金) 28日(土)

場所 日本 千葉県 千葉市 県立幕張総合高等学校
船橋市 船橋市総合体育館

3. ブロック大会の支援・協力

* 第13回(山口杯)北海道家庭婦人バスケットボール連盟結成記念大会

期日 平成19年9月29日(土) 30日(日)

場所 北海道雨竜郡妹背牛町 妹背牛(もせうし)総合体育館

* 第9回東北ママさんバスケットボール交歓大会

期日 平成19年9月8日(土) 9日(日)

場所 福島県郡山市 県立安積黎明高等学校・県立あさか開成高等学校

* 第13回関東ママさんバスケットボール交歓大会

期日 平成19年10月20日(土) 21日(日)

場所 神奈川県平塚市 平塚アリーナ

* 第9回北信越家庭婦人バスケットボール交歓大会

期日 平成19年8月18日(土) 19日(日)

場所 福井県坂井市 三国町体育館

* 第5回東海ママさんバスケットボール交歓大会

期日 平成19年10月21日(日)

場所 愛知県豊田市 スカイホール豊田

- * 第8回近畿女性バスケットボール交歓大会
期日 平成19年8月25日(土) 26日(日)
場所 和歌山県橋本市 県立橋本体育館
- * 第7回中国地区ママさんバスケットボール交歓大会
期日 平成19年10月28日(日)
場所 山口県山口市 やまぐちリフレッシュパーク総合体育館
- * 第6回四国家庭婦人バスケットボール交流大会
期日 平成19年8月25日(土) 26日(日)
場所 香川県高松市 県立体育館
- * 第4回九州地区ママさんバスケットボール交歓大会
期日 平成19年8月25日(土) 26日(日)
場所 宮崎県宮崎市 宮崎市総合体育館・宮崎県体育館

4. 普及事業

- * 県連盟設立推進(現在41連盟設立)
中国・九州地区の設立推進を図る

5. 理事会・常任理事会・その他の会議

- * 全国大会関係会議 準備委員会 平成19年4月28日(土)
出場チーム抽選会 6月 5日(火)
書類発送 6月 9日(土)
- * 理事会 平成19年5月19日(土)
- * 常任理事会 平成19年7月27日(金)
平成20年3月22日(土)
- * 運営委員会 毎月1回

6. 外部団体との協力事業

- * WJBLママさんバスケットボール教室
期日 平成19年8月7日(火)
場所 代々木第2体育館
- * WJBLリーグ戦の観客動員

<専門学校連盟>

■全国専門学校バスケットボール連盟理事会(第1回)

- 日程: 平成19年6月9日(土) 広島県(メルパルク広島)
- 内容: 1. 選手権大会の交通・宿泊について
2. 当連盟理事の変更について
(退任理事および新任理事の紹介)
3. 第8回全国専門学校バスケットボール選抜大会(新潟)の報告について
(収支結果報告)

4. 平成 18 年度会計報告について
(収支会計報告)
5. 平成 19 年度予算案について
(年度予算案の確認)
6. 事務局経費について
(事務局および総務への経費捻出)
7. 第 12 回全国専門学校バスケットボール選手権大会(広島)について
(ブロック枠・シード制・抽選)
8. 第 9 回全国専門学校バスケットボール選抜大会(大阪)について
(会場費等の確認)
9. 同一法人のチーム構成について
(登録方法・チーム構成人数等)
10. その他 (ハンチ規定の確認)

■全国専門学校バスケットボール連盟理事会(第2回)

●日程: 平成 19 年 8 月 24 日(金) 広島県(広島県立総合体育館:グリーンアリーナ)

●内容:0. 理事長より

1. 第 9 回全国専門学校バスケットボール選抜大会(大阪)について
(大会詳細・出場ブロック)
2. 第 12 回全国専門学校バスケットボール選手権大会(広島)について
(詳細確認・未登録チーム、未登録選手の出場有無)

■第 12 回全国専門学校バスケットボール選手権大会(広島)

●日程: 平成 19 年 8 月 24 日(金)～28 日(火)

●場所: 広島県: 広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)

	男子チーム	女子チーム
優勝	アップルスポーツカレッジ	大阪社会体育専門学校
準優勝	日本ウェルネススポーツ専門学校	日本ウェルネススポーツ専門学校 広島校
第3位	東京 YMCA 社会体育・保育専門学校	トライデントスポーツ医療科学専門学校

■全国専門学校バスケットボール連盟理事会(第3回)

●日程: 平成 19 年 10 月 20 日(土) 大阪府(東洋医療専門学校)

●内容:0. 理事長報告

1. 第 13 回全国専門学校バスケットボール選手権大会(北海道)について
(大会会場・大会日程)
2. 第 9 回全国専門学校バスケットボール選抜大会(大阪)について
(出場ブロック確認、ユニホーム規定、ハンチ規定・抽選・試合方法)
3. 当連盟の組織運営について
(内規、選手登録規定、ハンチ規定、ユニホーム規定、専門部会、年間スケジュール)

■全国専門学校バスケットボール連盟理事会(第4回)

●日程: 平成19年12月13日(木) 大阪府(大阪府立体育館)

●内容: 0. 理事長報告

1. 第9回全国専門学校バスケットボール選抜大会(大阪)について
(本大会の詳細)
2. 第12回全国専門学校バスケットボール選手権大会(広島県)について
(収支中間報告)
3. 第13回全国専門学校バスケットボール選手権大会(北海道)について
(日程、会場)
4. 第10回全国専門学校バスケットボール選抜大会(神奈川)について
(日程、会場)
5. 同一法人のチーム構成について
(選手減による対策)
6. 当連盟専門部の見直しおよび確認について
(競技・選手登録・大会運営・会場運営・表彰・記録・総務・広報・協会・事務・協賛)
7. 今後の開催地について

年度	選手権大会(夏季)		選抜大会(冬季)	
	開催地	主管ブロック	開催地	主管ブロック
平成20年度	北海道	北海道ブロック	神奈川県	神奈川ブロック
平成21年度	宮城	東北ブロック	千葉 or 埼玉	南関東ブロック
平成22年度	愛知	東海ブロック	沖縄	沖縄ブロック

■第9回全国専門学校バスケットボール選抜大会(大阪)

●日程: 平成19年12月13日(木)~16日(日)

●場所: 大阪府 大阪府立体育館

	男子チーム	女子チーム
優勝	関西ブロック選抜チーム	関西ブロック選抜チーム
準優勝	東京ブロック選抜チーム	東京ブロック選抜チーム
第3位	中国ブロック選抜チーム	神奈川ブロック選抜チーム

■全国専門学校バスケットボール連盟理事会(第5回)

●日程: 平成20年3月29日(土) 大阪府大阪市

- 内容:
1. 第9回選抜大会の報告について
 2. 平成19年度事業報告について
 3. 平成19年度会計中間報告について
 4. 平成20年度事業計画について
 5. 役員改選

10. 企画

1. 主な報告事項

- ①「基本デザイン」の商標登録手続きについてYKI国際特許事務所を通して特許庁に出願中であったのでその経過を見守った。
- ②新ロゴの「運用デザイン」について検討しYKI国際特許事務所を通して特許庁に意匠登録を行った。
- ③新ロゴ使用に関するアイテムの整理を行い執行できる物から順次対応することとした。
- ④日本代表ロゴ及びエンブレムの商品化について検討した。
- ⑤平成20年度事業計画(案)並びに予算(案)の立案に関わった。
- ⑥JOCの指導に基づき「理事及び監事候補者の選考に関する規程」を一部訂正した。

2. 企画部会の開催

- ①平成19年5月30日(水) 14:00～ 岸記念体育会館102会議室

11. 事業

1. <日本代表関連・国際大会>

①男子日本代表関連

- ・2008年北京オリンピックに向けた男子日本代表選手強化に貢献するために男子日本代表国際試合の開催を検討したが、条件が折り合わず実施できなかった。
- ・男子日本代表合宿の一部を利用して公開練習を実施するとともに、北京オリンピックアジア地区予選に向けた壮行セレモニーを実施した。

7月16日(月・祝) 11:30～公開練習 12:00 壮行セレモニー 来場者数: 約700名

②第22回FIBAアジア女子バスケットボール選手権大会

(北京オリンピック アジア地区予選) 壮行試合の開催(ニュージーランド代表)

- ・2008年北京オリンピックに向けた女子日本代表選手強化に貢献するために開催した。
- ・運営は実行委員会を設置し実施運営を行った。
- ・試合終了後壮行セレモニーを実施し、日本協会代表者やファン代表から激励の言葉と花束、メッセージフラッグをチームに贈呈した。
- ・広報部と協力し女子日本代表チームの認知度向上のためのマスコミ対策を行った。

4月17日(火) 開催概要プレスリリース

5月23日(水) 19:00～@国立代々木競技場第二体育館

日本代表 68-52 ニュージーランド代表

来場者数: 約2,600名

2. <<大会関連・国内大会>>

①JOMO ウインターカップ2007 第38回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会

全国高体連の指導で大会日程が変更となってから3大会目を迎え、今回は12月23日～29日の日程で実施した。昨年、増加した入場者数が今年も順調に伸びた今大会は、大会第6日目（女子決勝・3決、男子準決勝）では入場制限を実施（9,200人）、大会最終日（男子決勝・3決）ではチケット完売（7,700人）となり、過去最高の58,900人（有料入場者数は44,412人）の来場者を数え、前回大会の合計50,400人（7日間）を大きく上回った結果となった。

（※大会最終日が満員になったのは1998年の能代工業高校3年連続3冠時以来）

次回大会も常に満員の観客が入った状態で出場チームに最高のプレーをしていただけるよう運営に努力するとともに、テレビ放送規模拡大など新たな取り組みに着手し大会全体を発展させる方策を検討する。

- ・開催場所 東京体育館メインアリーナおよびサブアリーナ
- ・大会期間 12月23日（日）～12月29日（土） 28日女子決勝、29日男子決勝
- ・組合せ抽選会 11月29日（木）
- ・代表者会議・開会式 12月22日（土）
- ・実行委員会 9月10日、9月25日、10月18日、11月8日、12月26日、1月29日
3月13日、3月30日

②第83回天皇杯第74回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会（オールジャパン2008）

チーム数が前回までの29チームから32チームに増加し、JBLの外国人選手オンコート1と実施内容が変更となった今大会は、2008年元旦から東京体育館となった。集客の面では前回大会で大幅に増えた観客動員数（27,084人）をさらに上回る30,249人となり増収につながった。

次回AJ2009は東京体育館+代々木第1体育館での実施を予定しており客席数が大幅に増えるため、観客動員計画を練り集客努力を続けるとともに参加チームに最高のプレーの場を提供することを目標とする。

- ・開催場所 東京体育館（1～3回戦）、国立代々木競技場第二体育館（準々決勝以降）
- ・大会期間 2008年1月1日（火）～1月14日（月・祝）13日女子決勝、14日男子決勝
- ・組合せ抽選会 12月4日（火）
- ・実行委員会 9月20日、10月9日、11月6日、11月27日、2月6日

<<事業の構築>>

①マーケティングシステムの確立

オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤー、サポーターティングカンパニーなどマーケティングスキームの確立を目指し下記整備を行った。

- ・日本代表チームのロゴマーク、エンブレムなどの整備と運用
- ・日本代表チームの肖像権の管理・運用
- ・登録競技者の肖像および開催大会の映像使用などの管理・運用の準備

②日本代表チームのコンテンツ価値向上

日本代表チームのコンテンツ価値を高め、新しいビジネス機会の創出に向けて基本計画に沿った運用を行う。

- ・日本代表チームのエンブレム・ロゴの開発
- ・日本代表チームのマーケティングプログラムの実施
 - 女子オフィシャルパートナー：(株) ジャパンエナジー (2007-08 年度)
 - オフィシャルサプライヤー：男女共通 (株) アシックス (2005-08 年度)
 - サポーティングカンパニー：男女共通 (株) モルテン (2007-08 年度)
 - サポーティングカンパニー：男女共通 日本航空 (2007-08 年度)
 - サポーティングカンパニー：男女共通 セノー(株) (2007-08 年度)
- ・国内で開催した日本代表戦でのエンブレム・ロゴおよびスポンサーの露出拡大
 - 第22回FIBAアジア女子バスケットボール選手権大会
 - (北京オリンピック アジア地区予選) 壮行試合 (全1試合)

③JBA主催各種全国大会への事業的な取り組み。

- ・JBA主催各カテゴリーにおける『全国大会』のマーケティング価値の見直し。
- ・オールジャパン、ウインターカップをメイン事業と位置づけ運営面、収益面の改善を図った。

④マスコミ対策の強化

- ・男女日本代表チームの活動概用記者会見の実施。(広報部と連携)
 - 日本代表チームの価値を高めるため、活動状況の定例的・集中的リリースを行うため広報部と協力体制をとった。特に世界選手権を控えた男子日本代表では昨年以上の露出を得ることとなり今後もこの体制を強化していく。

12. 2007年FIBAアジア選手権組織委員会

1. 大会期間

- ・ 予選ラウンド：7月28日～7月30日
- ・ 2次予選ラウンド：7月31日～8月2日
- ・ 決勝ラウンド・順位決定：8月3日～8月5日

2. 試合会場

- ・ メイン会場：アスティ徳島
- ・ サブ会場：徳島市立体育館

3. 組織委員会及び実行委員会

組織委員会評議委員会：2回開催

組織委員会実行委員会：6回開催

4. 主な行事

- ・ 6月6日 ドローイング（ホテルグランドパレス徳島）
- ・ 7月27日 開会式・オープニングセレモニー・代表者会議・審判会議（徳島プリンスホテル）

5. 組織委員会業務活動

- (1) 大会準備にあたって、全体的に遅れがあったが、6月6日のドローイング以降、本格的準備などを急ピッチで行った。
- (2) 事務局の設置：徳島県協会内に設置
- (3) プロモーション活動
 - ・ 予算面でも告知活動に関する費用があまり無く、徳島県協会が中心となって、県や市、日本代表チームの合宿開催などで、効率の良い活動を目指した。
 - ・ 徳島県のマスコット「すだち君」の使用
 - ・ ポスター、告知チラシの作成
 - ・ 大会20日前、地元放送局への宣伝告知
 - ・ 地元新聞社への広告掲載
 - ・ 男子日本代表チームの合宿誘致（公開練習、サイン会などの実施）
 - ・ Jスポーツ（ホスト放送局）での大会告知及び男子日本代表取材
- (4) 総務・財務関連
 - ・ 総会、実行委員会の実施
 - ・ 後援手続きや県庁・市庁との折衝
 - ・ ボランティア計画及び教育の実施
 - ・ 予算、決算業務
 - ・ ADカード計画及び実施
 - ・ 来賓計画及び対応の実施
 - ・ FIBA、FIBAアジア等への対応
 - ・ 試合会場における食事の手配
- (5) 競技運営関連
 - ・ 大会全体実施計画の策定と実施
 - ・ 会場設備・用具機材の実施計画及び設営撤去
 - ・ 競技運営計画（試合、練習、TO、スタッツ、競技スタッフ）の策定と実施
 - ・ 会場警備、受付計画と実施
 - ・ 試合運営・セレモニー運営計画の策定と実施
 - ・ スタッツシステム：システムの選定とインフラ整備、スタッツ記入の研修及び配置計画
 - ・ 商品化（FIBA指定業者）の実施、大会プログラムの作成
 - ・ 審判対応：日本協会審判部を中心に対応。今大会より、FIBAアジアにおいても3人制を実施
- (6) 放送業務
 - ・ FIBAより日本国内における放送契約をJスポーツが行い、今大会映像製作も含め行った。
 - ・ 放送会場においては「アスティ徳島」のみでの対応
- (7) 宿泊輸送
 - ・ 今大会は「近畿日本ツーリスト」（徳島支店）を代理店として利用をし、チーム・審判・大会役員対応を行った
 - ・ 選手ホテル：徳島プリンスホテル、審判ホテル：ホテルグランドパレス徳島、FIBAアジア（役員）ホテル：徳島クレメントホテル
 - ・ 試合会場⇄ホテル（選手・審判・役員）の輸送計画及び実施
 - ・ チーム、審判、役員の出入国及び輸送計画と実施
- (8) チケットिंग
 - ・ シーティングプラン、価格設定、販売計画の策定及び実施
 - ・ チケットिंग管理は業務委託をし、全国販売を行った

- ・ 7月6日チケット発売を開始。目標額は上回ったものの、徳島市立体育館での入場数が伸びなかったことや、台風の影響や日本代表チームの勝敗によっても売上げに影響をしたが、全体的に後れを取っていたが、目標数を達成する事ができた
- (9) 国際対応
- ・ 国際対応については、日本協会国際部を窓口にはFIBAアジアとの連携や徳島大会での国際対応を行った
 - ・ チームハンドブックの策定及び配布
 - ・ 語学ボランティアの研修及び配置
 - ・ チームアタッシェの研修及び当日対応と管理

13. 日本バスケットボールリーグ設立委員会

《経過報告》

日本協会の主導のもと、「日本バスケットボールリーグ設立委員会」は次の経過を経て、男子トップリーグの運営団体設立のための活動を推進してきた。

平成15(2003)年

2月 日本協会、特別諮問機関「日本バスケットボール活性化特別委員会」を時限立法的に設立

平成16(2004)年

12月 日本協会「プロ化実行検討委員会(委員長:民秋史也)」招集

平成17(2005)年

3月31日 「プロ化実行検討委員会答申」を日本協会理事会にて承認、同日発表

9月 5日 「プロリーグ設立準備委員会(委員長:杉浦良昭)」設立

10月13日 プロリーグ参加団体一般公募受付開始

平成18(2006)年

2月13日 プロリーグ参加団体一般公募受付終了

4月 1日 「プロリーグ設立準備委員会」、「新リーグ設立委員会」に名称更新

4月 3日 一般公募より参加内定3団体を決定

7月14日 参加全8団体を決定、発表

8月11日 「新リーグ初年度シーズン実施概要について」報道発表

リーグ前哨戦となる「リーグカップ戦」の開催を発表

12月20日 リーグ正式名称「日本バスケットボールリーグ」を発表

「新リーグ設立委員会」、「日本バスケットボールリーグ設立委員会」に名称更新

《平成19(2007)年度活動報告》

1. 活動期間

平成19(2007)年4月1日～7月17日

2. 委員会(会議)開催実績

構成：委員長、参加チーム代表者、有識者、委員会事務局

開催回数：7回

内容：定款、規約、諸規程、事業計画、試合日程、事務局体制、法人化 等の検討・決定

3. 「バスケットボール日本リーグ機構」の発展的解散

新リーグの設立に先駆け、男子トップリーグ運営団体(当時)「バスケットボール日本リーグ機構」は平成19年5月17日に解散総会を実施、日本協会にトップリーグの興行権等諸権利を返還し、発展的に解散した。

4. 「日本バスケットボールリーグ」の設立

設立委員会は同委員会委員を主な発起人として、平成19年7月17日に設立総会を実施し「日本バスケットボールリーグ」(新「JBL」)を設立、日本協会よりトップリーグの興行権等諸権利を委譲された。なお、新JBLの設立に伴い、設立委員会は解消した。

(新JBL初代理事長: 民秋史也、副理事長: 伊藤善文)

《活動を終えて》

設立委員会は、日本協会の主導のもとにトップリーグ運営団体の設立準備活動を推進し、当初の予定どおり平成19年内の新JBL設立を果たし、その役割を終えた。新JBLは平成19年9月に初めての公式戦である「JBL CHALLENGE CUP」を開催、同年10月11日にはリーグを開幕し、その後順調に初年度シーズンを終了、現在2年目のシーズンを迎えようとしている。

設立委員会は解消と相成ったが、その活動にご理解ご協力頂いた日本協会の理事会をはじめとする関係各位には深く感謝し、報告としたい。

14. ナショナルトレーニングセンター(NTC)

「ナショナルトレーニングセンター(以下、NTC)」の開設に向け、設備、備品等について、日本オリンピック委員会(以下、JOC)と折衝、調整を行った。

平成20年1月、日本のスポーツ界として念願であったNTCが完成し、バスケットボール専用コート(2面)が設置され、運営や利用管理を日本協会が行うこととなった。また、NTCにはテクニカルルーム(以下、TR)が設置され、映像の管理・分析機能などが完備された。今後日本のバスケットボールの強化拠点として、強化活動を中心にした積極的な利用、選手育成、会議・研修会の実施など、有効活用が大いに期待される。

1. 利用規程・運用マニュアルの策定

2. NTC 施設管理 [全体: JOC、専用施設: 各中央競技団体]

- ・ NTC設置に伴うJOC専任コーチ規程、役割の変更
- ・ 各競技団体専任コーチ及び専任スタッフの配置義務
専任コーチ(JOC研修義務): 内海女子日本代表 HC、萩原女子日本代表 AC(ジュニア専任コーチ)
専任スタッフ(TR担当を含む): 1名専従者の配置((H20年度より実施)
- ・ NTC年間利用料の支払い

3. 強化拠点活用

- ・ 各カテゴリー日本代表年間専属利用
- ・ 日本協会内事業の利用計画の策定
- ・ 日本協会加盟団体及び加盟チームなどの利用計画の策定
- ・ 専用競技備品の手配、管理

日本協会として、強化活動を中心にNTCの利用効率を上げ、年間フル活用できるようNTC運営体制と機能体制の構築を図り、20年度からの本格的な利用に備えた。

以 上